Feb. 1892
no. 304

女學雜誌

第三百四號
明治二十五年二月十三日發兌

日本の裝飾美術
熊本英和學校一致師の告白
熱海の梅園　花園女史
內閣諸公に最後の一言を呈す
悲曲歌一首　雲峯子
英人評地震に於ける日本人
リンコン氏の母

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 304. FEBRUARY 13TH. 1892.

EDITORIAL:—A word to the Members of the Cabinet.

OPEN LETTER:—Letter from a Teacher of Kumamoto Eigakko.

LEADING ARTICLE:—Japanese on Earthquake (from "Spectator").

BIOGRAPHY:—President Lincoln's Mother.

QUESTION AND ANSWER:—Taste in Aesthetics; Division of Labours between Husband and Wife.

MISCELLANIES:—A Song of Lament (Unpôshi); Japanese Decorative Art.

THOUGHTS AND FANCIES:—Plum Garden in Atami (Kwa-Fo); Woman's Self Sacrifice.

CONTRIBUTED ARTICLEL:—Love your Enemies.

TOPICS OF THE DAY.

NEWS OF THE WEEK.

REPORT from the "Shinchi Den-do-Tai" (The Evangelical Band in the Land of Earthquake Disaster).

第三百四號目次

●社說　內閣諸公に最後の一言を呈す

●開書　熊本英學校一教師の告白

●論說　地震に於ける日本人（スペクテートル抄譯）

●史傳　リンコン氏の母

●問答　美術の趣味に對する或人の問に答ふ（中川生）〇夫婦間義務分擔に關する問に答ふ

●雜錄　悲曲一首（雲峯子）〇日本の裝飾美術

●隨感　熱海の梅園（花圃）〇女子の獻身者（みどり）

●寄書　愛敵

●時事

●女報

●震地傳道隊報告の終末

皇后陛下
明宮殿下　御覽濟の書

巖本善治妻譯

（リットル。ロード。フォントルロイ）

小公子

小供のよみ本

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遙する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですネィ、と申したとか。考えて見ますと、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ筈の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御坐り升。邪道に陷らふとする父の足をとゞめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の德を思ひ起させるは、神聖なる天職を擔ふ可愛の幼兒に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故此珍重すべきまろうざを尚一層優待したいと切に願ふ者です」と。斯る主意にて譯成る。原著は近頃英米に轟き渡り、子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髮の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回、且尚ほ劇に演して非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ、紙數二百八十頁密畫十四箇入の大本として今日世に進め玉へり。一冊正價三十八錢。郵稅八錢也。

發兌元　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第三百四號　明治二十五年二月十三日發兌

社説

○内閣諸公に最後の一言を呈す

シーサーにして若し早く一投書を開かば、遂に命を失なはざりしならん。内閣諸公、忙はしといへども、必らずや、左の一文を一讀せざる可らず。

總撰擧の期明後日に迫る、今に於て之を言ふ、殆んど益を為さゞるが如し。然れど、最後甚烈の競爭は正に以後三日の間にあり、君子もし改たむる所あらば、蓋し道なきにあらざるなり。故に、敢て終末の一言を呈す。

吾人は平素民黨の名に眩せらるゝものに非ず、何んとなれば、民黨と稱するもの必らずしも人民の友にあらざるが故なり。

吾人は亦た現内閣に反對するものに非ず、何んとなれば、其明白なる大失策多きにも關はらず、之に代つて正道を行ふと得べきもの甚はだ多からず、と歎ずれば也。密かに思ふに、目下、温良恭謙にして官民の間に獨立する人士少からず、彼輩國事に慨歎して自ら任ずる輕しとせず、つら〳〵兩極の激する所ろを察して、其過矯を和らかにせんとし、介然二者の間に立つて、其有道を助け、以て邦家の大政を直くしたり。過去に鑑みるに、一髪千鈞を繋いで、上下の和氣急迫の間だに維持せられたるは、此流士人が公平なる仲裁によれると多し。將來を想ふに、大日本の前途、亦た此流士人の手によりて導引せらるゝと多からん。吾人其の果して多からんとを祈る。而して、官黨、民黨、いづれか能く、眞正の輿望を負ふに足るべきかは、此流中間獨立の士人が好意を得ると得ざるとにありて決す。

吾人は、今回の總選擧に於て、頗ぶる現内閣の為に惜しむ所ろあり。夫れ、現内閣の諸公もとより凡賓の人にあらず、加ふるに、多年の經驗を以てす、人心歸向の理に於て幾分の得たる所ろなかる可らず。然るに、今回總選擧に於ける施策の妙ならざるに至りては、あゝ、諸公、誤まつて、中間温良の君子に失ふ所ろあらんとす。誰か、英雄の為めに涙を灑がざるべき。

吾人は、現内閣が、評判ほどに總撰擧に關係したりとは思は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ず。地方官、警部、郡長などの末々に於て、たとひ幾分の爪跡を雲霧模糊の間に遺したりとも、人情激し易きの數に勘辨して、一々之を內閣の故意に歸せざるべし。吾人は子供だましに似たる超然內閣の廣告を信ぜず、現內閣が總撰擧に多少の盡力を爲すは、尤ともの事なりと恕すべし。西鄕伯が無言の愛嬌を以て、奮つて鹿兒島熊本の邊に出馬したるなどは、アッパレの事なりと賞賛すべし。すでに、國會を開き、政府黨と反對黨とを生じ、其衝突の爲に斷乎解散を施行したる今日、今の內閣諸公に、禪坊主たれと要むとも無効なるべし。吾人は諸公に、爲し難きとを求めず、極めて爲し易きの途に於て要求する所ろあるべし。然れども、諸公、もし今の如き手段によりて愼しむ所ろあらずんば、諸公は遂に天下眞正の輿望を失ふに至らん。

凡そ、政機を握るものは、大胆にして且つ俊敏ならざる可らず。たとひ、諸公、八耳を揮ひ、十目を聳だてざるとも、如今各地方に於ける奇怪なる風聞を一々承知せざるとあらざるべし。警部果して吏黨に加擔したる乎、預戒令に會せるもの大抵民黨の人なる乎、郡長果して撰擧に關涉せし乎、地方長官果して訓令を發したる所ろありや、吾人は之を知悉するものにあらず。左れど、かゝる怪聞の跋扈橫行するは極めて確實なり。此時に當りては、政府員たるもの、極めて俊爽に、極めて敏英ならざる可らず。たとひ止を得ざるとありとも、知事、郡長の類を俄かに任免す可らず、多くの疑念を民衆に懷かしむ可らず、瑣々たる言葉尻によりて大國士の政談を制止す可らず、たとひ條例ありとも、最早公然默許せざる可らざる政黨の關涉を止むべからず。而して、現內閣の政策を窺ふに、必らずしも感服す可きほどに、大胆且つ俊敏ならず、不幸にして、いよ〳〵民衆に疑を增さしむるの失策なきにしもあらず。

天下に志あるものは、天下の眼を開くべし。夫れ、如此き處置により、此如き不人望により買得たる議會の多數員は、果して能く現內閣の爲に何事を爲す可き乎。衆議院の全員を占め得たりとも三百人にあらずや、諸公三百人の八百圓人物を提さげて何事を爲さんとする。凡そ、國會政略に大切なるは、議員自身の心を得るにあらず、議員の后りへに雲の如く團集せる、一般民衆の心を得るにあり。然るに、僅々三百人の議

會場に多數の忠臣を得んとして、全國億兆の人の心を失なふときは、諸公の地位久しく安からんと欲するも安くんぞ得んや。吾人は必らずしも風聞を信ぜず。然れども不幸にして、此風聞の如き手段によりて議場に政府員の多數を占むるを見ば、日本人民は冷温動物に非ず、諸公何んぞ深夜安臥するとを得べしとせん。たとひ、諸公醉ふて安臥すとも、ハムプデンは起つべし、ミルトンは歸るべし、クロムエルは馬を出すべし。彼の温乎たる君子、中立の公平士民は、遂に久しく安んずるものにあらざる也。

吾人は、民黨の候補者が此の度の選擧一々殊勝なりとは思はず。然れども、彼等が妙ならざる處置に優りて、寧ろ政府員の處置に對する奇怪の風聞頗ぶる囂々たるを耳にし、切に諸公の爲めに惜しむ。諸公果して多數を制するを得べしと信じ、而して尙ほ諸公の爲に惜む。何んとなれば、如此き風聞中に生れ出でたる、政府黨の議會は、遂に能く民望に適し、民望に安んずると能はざるがゆへ也。

あゝ、温良恭謙の君子は、必らずしも今の民黨に加擔するものにあらず、內閣諸公何の愚を學びて遂に此等邦家の眞良臣を失はんとする。內閣の諸公、頗ぶる世故に通ず、何んぞ此の見易きの理を誤まり玉はんとする。以後三日の間君子の悔改を爲しがたきにはあらず、敢て終末の一言を邦家の爲に獻ず、諸公大ひに顧みて可なり。然れども、吾人は必らずしも諸公の爲にのみ心配するものにあらず、何んとなれば、吾人は特に諸公にのみ忠ならんとを欲するの因縁なきがゆへ也。さりとて、吾人は、今の民黨にのみ同意するものに非ず、何んとなれば、今の民黨のみ人民の友にあらずと信ずるが故なり。吾人が衷心、兩黨の何れにも恩怨なし。たゞ、如此き風聞中に生れ出でたる政府員多數の議會は、遂に立憲政にあるまじき慘憺たる修羅城となるべしと預察するがゆへに、先づ諸公得意の結果を畫いて而して尙ほ其の邦家の益とならざるとを烈告す。況んや、諸公必らずしも得意の結果を得べきにあらず、而して尙ほいよ／＼民衆の怨を買はゞ、諸公の歎それ幾干ぞ。一片の俠骨あるものは、何んぞ默するに忍びん。

開書

乍失禮唐突呈一書候、我熊本英學校は頑僻最も甚しく、陰險人を排擠するに最も巧なる、敵圍の中に在て、幸ひ主の御恩惠に賴り、生徒の學校を愛する極て厚く、外、外人の輔助あるに非ず、內、有志家の翼賛あるに非ざるも、校員一同何事にも犧牲的の精神を以て、同心戮力致來候哉、百難蝟集の中を切拔て、校運漸く隆盛に趣き、我校の信用次第に相增し申候、然るに一昨年海老名彈正兄上京、傳道の局面に當られ候哉、其後任として藤原惟郭氏を蘇國より聘するとと相成、我校生徒の氏を信愛するの深き、衣を賣り、書を鬻で、五百圓程の金圓を募集し、氏を相迎へ申候、氏愈來校せられ、一月十一日を以て、校長就任式執行致候、然るに其節生徒總代泉某氏の演說に、吾人は個人主義なり、基督教主義なり、とありて、臨會の縣吏、之を聞咎め、別席に社員を召き、個人主義と云ふとを縣官として聞棄に爲し難しと談判し、又教員奧村氏が教員總代として、祝詞を述べ、其中に博愛の精神を說き、亞細亞とか、歐羅巴とか、國々の隔てなしと云ふ樣なる意味ありしを、捕捉し來り、當地保守派の機關たる九州日々新聞は、當日奧村氏が、本校教育の方針は、日本主義に非ず、亞細亞主義に非ず、歐米、主義にも非ず、乃ち世界の人物を作る博愛世界主義なり、故に我々の眼中には、國家なく外人なし、況んや校長をや、今日の來賓をや、余輩は唯人類の一部として之を見るのみ、云々とありしと記し、其後社說に於て、國家なしと云ひしを、國家を蔑如したるものと曲解し、勅語に背戾したり、大不敬亂臣賊子なりなど、我校を侮辱仕候、加之當縣廳は、我藏原氏を召喚し、種々尋問する所有之、我校に於ても我教育主義の爲め、棄て置き難き事と存じ、一方には日々新聞を誹毀として之を法庭に訴へ、一方には天下の公論に訴へんと覺悟仕候て、それ〱着手致候處、本縣知事は卒然我校に、奧村氏を解雇すべしと命令仕候、依て我校は其理由を伺ひ、同氏の演說は違勅と認められ候と質し置候、固より違勅と認めしが其理由なるも、天下の公論を憚りて、明白に違勅と指令し得るや否や、刮目して相待居候、若し違勅と指令致候はゞ、これ天下公論の忽にす可らざる儀と存候、我校の覺悟は、理由分明ならざる限りは、特に違勅と指令致候はゞ、斷然其命を奉せざる積りに御座候、されば縣廳は必ず、我校を解散致候は必然と存候嗚呼事此に至れば、愛する生徒諸氏、積年犧牲の功は、一朝にして水泡に屬し可申、之を憶へば社員教員多年の苦心空しく相成、實に斷腸の至に候得共、不得止儀に御座候、吾人軟骨なりと雖と、此膝屈す可らざるの氣節は有之候、然れとも主は滿腔敬神の念を滋へて、而して反て不敬虔の徒に、神を瀆すと罵られ、之が爲に斃れ玉へり、吾人聊か愛國の念ありて、僞善の徒に、亂臣賊子と罵らるゝも、亦是れ吾人の分のみ、若し事我校に關するのみに候はゞ、幸ひに主を信して、膝を屈するの忍辱は學び居候、然れとも、今回此膝一たび屈せば、我神聖なる主義を屈する儀に御座候、眞理を違勅と宣告せられて甘ずる事に相成候、僞善者の爲に、我黨教育の主義を挫折せらるれば、如何にしても忍び難き儀に御座候、今や知事と保守者流と相結托し、我校を斃さんと致居候は明かなる事に御座候、保守の妖雲天日を掩ふ、熊本縣下に在て、眞理の光を現はすと、今日遽かに期す可らず、今日の事賴む所は、天下の公論のみ、國家の問題政治の問題を論ぜしに非ずして、唯博愛の點より論ぜしものゝ、語句を捕捉して、違勅と云ひ、斯る事の爲に、知事たるもの、直に私立學校に手を容るゝ義に候はゞ、私立學校たるもの實に危險の境遇に立つものと可申、實に今回の事たる、教育上の一大問題に候へ者、是非共日本全國の大問題と仕度、今や我校の現狀は、奧村氏は當局者の命令を重ずる爲め、謹愼授業を中止致居、其他二三の教員は專ら此回の事に當り居候得共、學校內部の方は、生徒諸氏激昂の情を制し、此際一層平日の科業に精勵仕、互に相助けて、一科も休まざる樣に致居候、實に今回の事たる、基督主義私立學校の消長に關する大問題と存候へば、何卒天下有志の勢力を聯合して、大運動致度不堪希望候、雖然名望なく地位なき、微力なる不肖等、固より精力のあらん限り盡す覺悟に候得共、是非有力者の御運動を望まざるを得ず、主義の爲め國家の爲め、生等の微衷御洞察被下度、聊か哀心を披て御依賴申上候、嗚呼至誠の事業、今や空く僞善者の爲に、國家に不忠と呼ばれ、亂臣賊子の名を負はせられて、蹂躙せられんとす、唯衷心慰むる所のものは、正義公道の必勝と、天下公論のあるとのみに御座候早々敬白、

一月三十一日

肥後託麻郡大江村
熊本英學校內　柏木義圓

植村正久様
巖本善治様

追伸仕候　勅語は教育家唯國民として心得可き事を語らせ玉ひしのみにして、道德主義を確定し玉ひし譯には無之と存居候、然るに勅語出て、始て道德主義定りたり、教育上には儒教主義、何々の倫理主義など、他の主義を用ゆ可らざる如く、唱ふるもの教育雜誌等に往々相見へ、此の如き思想滔々として行はれ居候樣に相見へ候、且又個人主義は、勅語に違反するなどの誤想も隨分有之、此の如き事は論ずるに足らざる事に候へ共、地方教育者には、斯る誤想頗る多く、今回の事の如く、此事行政官の實行に現れ來て、教育界の自由を蹂躙するに至らば、大に天下の弊害と存候得者、大都に在て斯る事を論ずるは大人氣なきの嫌ひも可有之候得共、時事上より、學問上より、大論を御發表被可下度、偏に奉希上候、今や當地方の如き、勅語濫用の弊甚しく、此に藉て思想の自由を壓するのみならず、有夫姦あれば、勅語に違背せりと記し、人の外國に在て母の死期に後れば、勅語に違背せりと云ふ、實に勅語を瀆すものと可申、此事亦御論明、政府の注意を御喚起被成下度候。

時宜に由ては私立學校聯合の運動致ても、是非我黨の主義を押立置由度、殊に內村君の事件と云ひ、今復此事在り、今にして十分押さへ置かざれば不可なり云々、

論説

震災に於る日本人

倫敦スペクテートル、去十二月中旬の論文に左の一篇を載す。蓋しハットン氏の筆なるべし。所論極めて見るべく、同胞を益すると多かるべしとて、譯し示す。

怕るべきものは地震なりかし。いにしへより之が爲には幾萬の人命を失ひしとも知らず四柱見る間に折れくだけて天地忽まち修羅の街とぞなる。昨年の冬霜月の空さむき頃日本の美濃尾張なる大地震は「タイムス」の報道にていち早くも西人の口にのぼりぬ。予も亦一たびは怕れ一たびは驚きこれぞ天のなせる災害とはいひながら心して其くだりを閲するに山落ち堤决けて荒路斷橋すさまじく家財家産のこと〲く燒けうせたるはおろか身は雨風に曝されて憂日のかずのみを重ねつ。是より後また如何なる運命に逢はんやも知れざるに斯る慘憺のうちにありて震災に逢ひたる日本人は倘喜色をうしなはずおのが不運を吊ふといへり。おのが命の程の瞬く間にも危きに悠然として之を笑ひ去り新しき位置を得ては直にこゝに安すんずといへり。壯なる人は地震の殘こしおけるくさ〲を拾ひあつめておのが前業を營みつ幼きものは父母の亡骸を枕としてうれしげに其おもちやを弄ぶといへり。

いでや日東の災民のかゝる慘憺の街にたちておだやかなる心したりといふことを論ぜむ。これをもて果して沈勇の象となし予等も其下風に立ちて之を學ぶことをせむか、或は堅忍不拔の心なしとしてあへなく之を貶さむか。もとより日東の民は英人の如き沈靜なる氣風あらず、之を英人に比べては其心いや輕くして洒落なり、例へばおだやかにして柳の如きものか、左は多少亂雜あることはありて新しき事物に走り易く、泡と消へたる過去の望みに居るとを好まずして、其悲みや直に癒し易し。この故にまへには如何なる大望ありとも一旦之を捨てゝ新奇にうつるは弊履を見るよりも倘かろかり。是蓋し一時一瞬の性質なり、無常に居るの腦漿たり。夫れ人この世にうまれ來て望むところ多く成らず思ふところ多く行はれず左れば悲哀の面をはなれ去りてあらゆる限りの喜びを盡し一時〲の涙を乾さむには無常に生れたる動物の其無常なるに滿足せむか。愛するものゝまのあたりにうせたればとて之と共

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に愛の心を沒了せむか。天地無常なるが故に容易すく之を捨むとするは智か。うたかたの夢の世に居て心も共に泡沫を追はむとするは智か。散り易き人の世に生れて「無限」といへる畢生の望みなきものは智か。日東の民の洒落を學びて天地を一笑に付し去らむか。かくも變遷の世に生れ出でゝ永遠無窮の大氣を吸はむには人夫れいかなる道にか從はむ。

もとより人生の無常なるが爲に遂に風雲を友として物外に遊ぶの志を起こすともいみじくも亦悲む可き人間の哲理也。されどこの變り易くうつり易き感情をもて「ヒューマニチ」の最智識なるものと考ふるとも、遂に其成効の的あかる可きを奈何せむ。いにしへより詩人の數いと多し然も皆かゝる信仰の人間に不適當なるを歌はざるものなし。人間の大知己とやいふべき、シエークスピアも、

"Love's not times fool, though rosy lips and cheeks within his bending sickle's compass come, Love alters not with his brief powrs and weeps, but bears it on, e'en to the edge of doom of this, be folly and upon me proved I never writ and no man ever loved."

うたのこゝろは
飛鳥川ふちせにかはる世なりとも
我こゝろねはかはらざらまし

とは讀みけむ。其他いにしへよりすぐれたる國々にして無常の法則よりいで來るこの變り易き性質をいやしめざるところなし左るは運命の嵐に折れ易ければなり。過にし世日本の如く地震になやめる國民あり、其國の大敍情詩には、天地の變り易きに恐れ慄きて、而もかく之を作りたる神をうやまひ奉りぬ。之を日東の民に比ぶるに、彼は永遠の大道をさぐり是は無常の即感に落つといふべし。

夫れ日本人が感情の民たるは疑ひを容れじ、其高尚ある美術的の思想あるは變り易くうつり易き感情に基きて、時と共に流轉するさま〳〵の念ひにぞ映ろふによる。さはあれど感情主義(Impressionism)は美術家の秘訣とこそいふべけれ之によりて「生命」を學ばむとするは難し。況して美術に於てすらまことの感情主義の目的とは、美の本源を探り求めてこゝに無窮幽玄の意を得るにあるをや。人間哀樂のうつろひ易き「シヤドウ」に永遠の形象を畫かむとするは、頗る難き業なりけらし。

いま日本は變遷の時なり國民の思想うきしづみて高きもあり低きもあり。されど是國民は其文明を輸入したる國々の間に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

立て日東の國華をかゞやかさむとする前先づ人の運命の浮雲をはらひて彌高き榮光の影を仰ぐの用意なかる可らず。いにしへより震災のはげしかりし爲に道念の鍛練を得せしめしためし多し。見よや、歐洲震災のはげしきは地中海なり、地中海かつて羅馬人種といふものを生みぬ。是國民はむかし他の國々に先ちて確と人間の天則を探りつ、其無窮高遠なる理想を深ふせんとこゝろみたり。うつり變る地震の幻像の永遠に於る信仰を敎ゆるの種となりたるは珍らしからず。其れ浮きたる生命あるは、浮きてあらぬところに人の心を導くといへば、日東の民の輕き性質は、雲の如く變化の風に吹かれて無限の神の前に溶けなむといふ。

戀愛と厭世詩歌

右續稿は次號に掲載す

史傳

アブラハム、リンコンの母

そのかほのいやしく見ゆるさもこの人は
「自然」のうめる巨人のひとりなり
そのうではたゝかひて勝たじさいふためしなかりき
かたるに文なくふでをとれば俊し
だいさのためにうまれ
「ユーモア」をもて人をうるのドつをえたりき
人情のためにわが前さするところにすゝみこそすれ
やぶりがたきところに屈するの智はあり
アトラスの道の難きはおろか
みんせいを其かたに背負いて立ちしが
たちまち道落ちてつひにそのみは高くのぼりぬ
おどろきしさまは更になかりき
王侯相將さいへども
このめでたき仁者の前にはその席をさくさいふ。

これ詩人ストッダードがアブラハム、リンコンを悼むの辭なり。されど此人は貧苦の中に生長ちて誰が眼にも「悲哀の子」とぞ見るべかり。さるは渠が生れし時のあはれなるによると雖亦其母の心を禀し結果なれば、リンコンを知らむとするものは先づ其母を知らざる可らず。いにしへより大人賢女の母にして世に知られたるもの少なからず、左れど世に知

られざるもの又多かり。其世に知られざるものといへども、慈愛の影を吾兒の心裡にうつして、後日絶倫なる風骨の種となる。生理學者の言ふところにても、母の子に與ふる精神上の感化力は父なる人よりも大なりとかや。又は世に大人賢女ともいはるゝものゝ母は皆人に勝れたるこゝろだてありて、子を思ふ情の篤からぬはなし。ジエームス、ミルといふ人敎育論を作りて、生理上より觀たるところにても、人間品性の先づ成らむとするは、赤兒の是世に生れ出でゝ漸く感覺といふものを知り初めし時にはじまると。さればこの折において、母の感化の大なるといちじるし。「フランス」の名ある生理學者の中にも、之に等しき說を立て、赤兒の未だ生れ出でざる前すでに母のもてる智識道念の胎兒に影を映すといへり。母の心の波高きときには、その兒における「心印」の彌深きものなるが故に、例へば良人の境遇によりていたく我身に悲痛慘憺を覺ゆる時のごときは、生の子に影響を及ぼすこと一方ならず。斯る神經の激動をうけて生れし兒は、一時智識の勝れたるが如くなるも、長じてはおろかなるものとなり畢らむ。おそれ愼む可きは胎內に兒を懷ける母の身の上なり。

されば居常こゝろをうちに守りて靜肅溫良なる念を抱かば、生の子のめでたき品性を得ざる道理あらむや、うつくしき自然の風光に接しては、其兒の品性に幸福の痕を殘さむ、山を樂むものは仁者を生む可し、水を樂むものは智者を生む可し。アブラハム、リンコンが品性の裡に、深き悲哀の痕あるは、其母の不幸なる心より受たる直接の感化とこそいふべけれ。母は其名をナンシー、ハンクスと呼べり。常に病勝にして身にあまる勞役に從ひ、世に其心を慰むべきこと少かりしと雖、天資謹厚篤實にして仁愛のこゝろ深かり。リンコンの父なる人は高き希望を抱けるともなく、他に於る責任を重んずることもなき、平凡無能の賤民にして、更に其妻をいたはる情の見えざりしといへり。是故にリンコンの生れ出でしや、先づ悲哀のこゝろを知り初めしとは、母ナンシーが憂き生涯のかなしさに堪へずして、沈鬱寡默なる性質を抱き、天地に一人の友といふべき無情の良人と共に、身の侘しさをかこちたればなり。ナンシーは若かりし頃の活潑にして、愉快ありし性質にひきかへ、一旦リンコンの父に嫁ぎて、いたく悲哀なる妻となりしといふ。そは渠女の感情の強ければにや。

もとよりナンシーの顏色に、不幸と悲哀の影の見えしは、渠女が未だ年若かりし頃よりなりき。左ればその子なるリンコンは同感の情ことに勝れしより、人世の悲しき面のみを覗きて、母の姿に似ざれといふはかたし。

ナンシー若しリンコンを生みて渠と共に永く是世にありたらむには、世の巨人を寫さむとする傳奇家をして遂にリンコン母子の感化を畫く能はざらしめしならむ。そは斯る悲哀なる感化力の上に、不幸なる結果を寫すに至ることあるべければなり。況んやナンシー渠と共に永く是世にありしとも後日其生涯の樂しきかたに向はむとは思ひ難かりしところなるをや。況や身をたゝく如き貧苦に落ちて清健となるべき望みなかりしをや。一旦妻となりては、その若かりし頃の希望を失ひ、未來に樂しき「ホーム」を射るべき心の的はなかりしなり。さはなれども、天もしナンシーに幸福なる境遇を貸したらむには、極て世に勝れたる女子となり身に禀けたる能力を示せしならむ。ナンシー僅に人の世の一面を窺ひ見たるのみなれど、其同輩に比べては我智識のすぐれたるを確信し、愛兒の爲に絶凡なる直覺力と、世に稀なる同感の情を遺しおきぬ。ハランド博士かつてナンシーを贊していはく、世に知られたる大人にしてこれよりも清高温良なる懷裡に抱かれしためしあらざるべしとぞ。夫れヂッケンスは幼き頃より貧困の苦楚を嘗め盡し、リンコンは世に生れて初めて悲哀といふものを學ぶ、彼は詩壇に入りて貧者の友となれり、是は政壇に立ちて不幸なる窮民の侶となりぬ。宜なるかなナンシーが愛兒を是世に殘せしは、渠が十歳の春なりしことと。

ナンシーは其良人との間に二人の愛兒をもうけしかども、一人は幼くして病沒したれば、母子の愛情は殘る一人にあつまりたり。リンコンの父は賤しき家に生れて文筆の業に暗ければ、一人の愛兒に讀書の道を敎えしも、この母なるナンシーが力なりけり。噫ナンシーが賤が屋の裡に住ひて、勞苦に月日を送りし間、愛兒をその傍におきて書讀む業をぞ敎ゆるの圖は奈何なる人の寫せる悲畵ぞや。

ナンシーが其愛兒を敎えしや、常に其心をはげまし、其勉めたるを賞したり。渠女は其悲しげなる顏色を仰ぎて、あたゝかなる敎訓に耳そばだつるリンコンの行末を心に憂ひ、世の怠惰無賴なる輩とならむとを恐れ、つとめて勤勉のみちに從はし

めき。ナンシーがリンコンの父に嫁ぎたるおり、其姿を記したるものに、長高からずして形痩せ、髪黒く、眼は優に人を射りて、威儀謹直なる女子なりしといへり。

千八百十八年霜月の空寒き頃、ナンシーはあらゆる限りの悲哀寂寥を嘗めし後、遂に十歳の愛兒を殘し置きて、永き眠の途に上りぬ。噫その行末を樂みもし憂ひもしたる愛兒の姿を後に見て、獨り浮世の形骸を辭せむとは、奈何なるナンシーが最后最大の悲みぞ。その愛兒を力としたる病母の熱涙は、ロパート、ブチヤナンの悲句にぞ著しき、

"Oh, bairn, when I am dead,
  How shall ye Keep frae harm?
What hand shall gie ye bread?
  What fire will Keep ye warm?
How shall ye dwell on earth awa' frae me?"
  "Oh, mither, dinna dee!"
"Oh, bairn, it is But closing up the een,
  And lying down never to rise again,
Many a strong man's sleeping hae I seen:
  There is nae pain!
I'm weary, weary, and scarce ken why;
  My summer has gone by,
And sweet Were sleep but for the sane o'thee."
  "Oh, mither, dinna dee!"

家は貧にしてナンシーの葬儀をいとなむ可き資なく、アブ(リンコン幼時かくはいひき)人の勸めによりて、おもだてる村吏に陳情の書を贈りつ、漸くかたばかりをいとなみしかば、見るもの其孝心をあはれみしとぞ。而して此のアブは他日北米合衆國の大統領となれり。

問答

某孃ニ答ヘタル書

中川尙絅

御手紙の趣承り侍り候素より美を知りて是を鑑別致候には審美學と申もの御坐候て迚も一朝一夕に盡しがたく候へ共小生は平生畧左の如き標準により候樣致居候是とても決して正しきものには有之まじくたゞ〳〵御參考のはしにもと申上ぐる次第に御坐候即美を別ちて上、中、下の三と致す事にて今かりに繪畫を以て之に配し候に上は神品逸品と申さかひ中は能品佳品と申さかひ下は常品凡品など申候て然るべく存候亦申候へば上は書き現したるよりも多くを觀者に想像せしめ得る程の力あるもの中は書き現はしたるを夫だけに見せしむるとを得るもの下は書き現はさんとしたるだけを書き現はし得ぬものに候語をかゆれば上品には餘韻あり中品にはぬけめなく下品には蛇足をそへたるが多しとや申上ん小生かつて應擧畫の展覽會にてそのものしたる春景の一幅を見候ひしに畫く處は只二三のわらびと一のうづらあるのみにて他に何も見る處なけれど其見る處あき部分に觀者をして無限の想像を起さしめ

春曉駘蕩の景の胸中に湧き出るに至らしむるは全く應擧の筆の神に入たる全幅の中云ふ可からざる餘韻ある故と存候中品は當時名家なりと云はるゝ畫家に多きやに存候下品の多きは申迄もなし右はたゞ繪畫の上につきて申したるにて候へ共此區別法は他の觀察上にも應用致す事を得候樣存候たとへば文章家の僅々數十百の文字にて富岳の壯天橋の美を書き現はし人をして神魂の浮遊するを覺えざらしめたりとせんにこは實に文章の上品即神逸なるものにや候はん赤壁賦岳陽樓の記などや是にあたりたりと云ふべからん中品の文章家の世に輩出したるは擧て數ふ可からず況んや其下品なるものに至りては滔々皆此類にて候其他彫刻と云ひ漆器陶器の類と云ひ其品等を分つは大抵此標準にてわたるべく候俳優の伎を見るに亦この標準によるべきものあり先年團十郎の演したる大石良雄を見候ひしに擧止沈着一擧手一投足も忽かせにせず一語も容易に發せず候て舞臺に突立ちたるまゝにて而も觀者をして感涙仰ぎ見る能はざらしむるものは是所謂餘情なるものありて已の言語擧動にあらはれざるさかひをも人に思ひ至らしむる伎の神あり菊五亦名優を以て世に鳴るされどもかつて其扮したる太閤を見候ひしに何言語擧動に現したるだけの伎を以て人の歡を得たるに過ぎずと思はるゝ處なきに非ず何神逸のさかひに到り難くや候はん其他常品凡品なるに至りては飛んだりはねたり致候ても觀者の感をひき候樣の事は決して無之候落語家圓朝は語簡にして意つくし一言一語の間云ふべからざるの妙あり是や即神逸のわざなるべき燕枝圓生の如きは人をしてうなづかしむる事は多からんされど餘情なければ感ぜしむることは何彼等の能はざる所なるべし山勢松韻の彈ずる琴はよせの盲法師のものゝ如きさう〱しき音やはする此邊にて上手と下手とは相わかるゝ事と存候さて小生の考へ候には上品に達するには何にまれきはめて其道の天才あるもの丶非常に刻苦するを要すべく中品に達するには其道の天才あるものはあまりに苦まずとも一と通りの學びにて至るを得んされど凡才は非常なる修業をなさゞるを得ず下品に止まるは凡才あるが上に刻苦の勞をつまず通常の學びより以上をなさゞりし徒ならんのみと被存候天才あるが上に刻苦修業するものは甚得がたし故に上品は得がたき也上品に達し得べき才ありて中品にとゞまるは世に其人多からん下品にとゞまる才にて中品

に登りしものは亦あまり多からじと思はれて尙天才に成りたる美と勉強により得たる美との區別など申たき旨多かれど此度はさまでとて申もらし候し近來繪畫御熱心のよし承り誠に御たのもしく存上候書外次に可申述候。

夫妻分擔の義務に付女學雜誌記者の敎を乞ふ

一箇のホームの內には夫妻と小兒と下婢下男等あれ共小兒は万事兩親に依て生活し居るものにて下婢下男は一時茲に止るものに過ぎざればホームを變りなく樂しく成立しめ一箇のホームとして社會の一分子たるの義務を盡し他のホームとの關係を全うするは無論夫妻二人のみの負へる義務とこそ知らるべけれされ共遠き將來は兎も角も今日實際の場合に於ては男女各其能を異にするが故にホームに關係したる事のみに付て言ふ時は夫は專ら外に出でゝ日々の職業に勉勵し是より得る處の報酬を以て一家を安樂に暮さしむるの義務を有し不平の出來事よりするも若し此義務を盡すを能はざれば假ひ其妻子は是を責ず共夫たるものは妻子に對し實に不面目此上なき樣に感ずるを常とし夫が妻子を愛する其愛は何を以て最も好く表さんかと云ふに逆境に於ては已むを得ざれ共順境に於ては己れ日々の職務に勉勵し其身出世してホームを益安樂ならしめ名響を博得してホームの光榮を增さんとするにあるべし且又夫たるものは社會及び他のホームに對して己れのホームの代表者となりホーム一箇としての責任を皆己れに負ひ假ひ妻子の過失なり共苟も外に關するものなれば皆引て是を己れに負ざるべからず。是に反して妻は專ら內に居て家事を整理し假へ其實物は粗末なり共ホームを美しく樂しく天國の如き淸らかなる樂園とならしめ夫が喜び樂んで其義務を盡すと同時に妻は樂み喜んでホームの他の一半の義務を引受け夫居らざる間必要あるときはホームの主人となりてホーム一箇の義務を缺かず昔時の奴隷的精神より出るに非して義務の感念と愛により夫の出る時は是を勞り夫の歸る時に是を慰め衣服の修復料理等其特有の緻察周到なる注意力を以て得意に是を自らし下婢下男を直接に監理し是に命令し下婢下男の功勞は己の功勞となると共に其過失は己の過失たるの覺悟を有し夫が社會に對してホーム一箇の責任を負ふと共に妻は夫に對してホームの一切の責任を負ふべきものならんか此の如く書上る時は法律的に夫妻の義務責任を割定するが如くにて好むべざとに非ざれ共現時の社會に相應しき古來慣習の變遷の結果に於ては先づ此の如きものならんか。世上の男女が夫となり妻とならんとする前に於て知らず識らず此の如き覺悟を懷くに非ざるか。傍觀の批評者が暗に批評の基とするは此の如きに非ざるか。現時の社會の法律は自然夫妻をして此の如き分擔義務を負はしむるものに非ざるか。小生が夫は專ら外に勉勵し妻は專ら內を守ると云ひしはその義務を盡さんが爲めに必要なるが故なるのみ。小生とても理想のホームに付て考ふる處なきに非ざれ共、そは人間の尚々進步したる上の話にして今日惡魔と天使との間に逍へる誤り易き人間が現時實際に作り得べきホームの內に於て夫妻分擔の義務は大概如何なる邊に存するものなりや考深き女學雜誌記者の敎を乞ふ。

女學雜誌記者足下　　何　某

編者答ふ。普通なみ〳〵の分擔法は、大方分說せられたる如くにて、當に然るべしと思はる。人々は其好く實行し難きを憂ひとす。但し、更に細かき所に至れば、其分擔法は戶々に於て相違すべし、夫婦は相助けて其短所を補ふものなれば、夫婦銘々の性格氣質長所によりて分擔法も亦異なるべし、之を劃一に制定すると能はず。趣味、好尙は人により異なるものゆへ、强ち「我の」をもて「人の」を測度すると能はず、委は、其一家の內の家風にあり。何よりも、結婚後夫婦自身が人間として發達するを主旨とす、人として進步せずば、安樂も賴母しからず。家政、分擔など、一に此の根底より割出し判定するものなり。

批評

『巨人石』を讀んで「忍月居士が『小公子』の批評」に及ぶ

天　牢　四　民

「巨人石」の一篇、何ぞ夫れ悽愴を極むる。無情―澗溪に流るゝ花、多恨―獄窓を照すの月。荒廢せる山庵―對―寂寞の城、轟々たる雷雨―對―凜々の雪、囚徒と獄吏、墳墓と行脚僧、を配合し、是れに白髮の老翁、啞の僕、無邪氣の少女、を幹旋して愛哀悲憤を寫すの文字には、墨の涙を含み筆端血を吐くを見る。而して彼巨人石の、或は歎ひ或は笑ひ或は怒り又能く動くに至ては、讀者をして石が巨人なるか巨人が石なるかに眩惑せしむ。アゝ麗水氏の筆亦幻妙なるかな。此うち人物の服裝に至ては一も寫す處なし、そは更に言ずとも可なれど、獨り勇美子の服裝の如何にあらんかは、多少讀者の思ひ到れる所ならんに、著者の筆遂に此に及はざりしは、余の竊かに憾むところ。又初め柴門をめぐるの溪流を描くや、頗る意を用たる如かりしに、遂にまた閑筆となり了れり、余は思ふ此所寧ろ一株の老樹を寫して、後段落雷の襯染とし且つ勇美子が壁につくれる「をとこ岩」の齒を、此老樹の幹にあらしめたらんには、更に幾層の妙あるべきにと。されど、こは見る人々の心にあれば、余は強いて余の考を可なりとは云はず、よし藉りに是を可なりとするも、そは花顏の一黒子、句々章々苟くもせざる、周到の用意、奇峭の文、一篇の價は正かに千金。

余又想ふ、「巨人石」は彼の有名なる Heinrich. Heine 氏の「Lorelei」に酷だ似たるものあるを、「ロウレライ」何ものぞ、ライン河の曲流に峙へたる石盤石なり、高サ百卅メーテル、其狀恰かも佳人に彷彿たり、石根尙幾多の岩石ありて、河流の彼方の角に碎け此方の面に反響する音は、咽ぶか訴ふるか又悲む如しと。昔しブレンタノー此岩を寫して悲哀小說を殘せしが、身愛婦に棄てられたるルイ子の境界、また此小說に似たるより、感殊に深くして、溢るゝ悲哀を此岩に寄せて剖現せしもの所謂此「ローレライ」なり、其詩に云く

余は自らが其何の故たるを知らざるまでに、余が心の底の底に鏤り刻まれたる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

悲哀は、いかなるてだてもても取り去ること能はず、然り余は余が魂魄と肉躰との相共に生ける限りは。アヽ然り、余は余が滿腔の感情を彼のブレンタノーの「ディヒト」に埋め盡されて、さらに一點の虚地をも餘さず、こは必ず余が感情の血温かき腔裡に宿る限り。見よ、熱さめし涼げき空氣は河の面を咎めて、ラインの水は靜かに咽べり。地界の脊隆の背に隠れたる大陽は、そが直上の雲に光線を送りて、反射は彼方の山の頂に火を噴かしむ。見よ、彼の頂きの燦爛ゆき光りのうちに、アヽ、大理石もて刻める如き佳人の坐せり、そが頭と肩とに靉靆ける雲髮は、春つく光線に勵れつヽ、さも黄金の櫛の齒に似たるとよ。聞け、彼の佳人は謠ひ初めぬ、實にほがらかなる聲音妙なる節奏もて、アヽ其力、よく幾多の人の肉躍り骨覽ふほど。見よ、ふもとの闇き流れに泛べる木の葉船、其舟夫の佳人を仰ぎて耳はうつヽに歌の通ひ居るを、アヽ彼れは危ふき暗礁をも忘れ果てヽ。余は信ず、舟夫は遂に己のが魂を天空にすヽられて、身は舟もろとも、深淵の冷へたる腹に飲まれんを。そも是等のこと、誰がなすわざにぞや。嗟噫、皆おそろしの「ローレライ」。

描き余の筆には支離滅裂して讀むに堪へれど、其意味のあらましと見ば可ならん、そも此詩の寫す所、「望んで得難きの望を欲する者」に來るべき哀痛、「己れを忘れて他に心を奪はるヽ者」の遭遇すべき危險、牢々たる巨巖一對一搖々の片舟、嶄突なる山の頂一對一低平なる河流の面、彼の爛燿たる光線と此鈍闇なる水色、佳人と舟夫、謳歌と絶命、を描き分けて、一個巨巖の上下には自ら天國と罪世、極樂と地獄あるを見るなり。「巨人石」の趣向もと是れと異なれば、着筆も亦從て別樣ならざるを得ざれども、左りながら又甚だ似たるものあるを認む、見よ彼の岩は佳人の姿態是れは巨人の風釆、彼の岩頭には夏日の斜暉を送り是には春夕の朧月を懸く、而してブレンタノーのディヒトには岩頭より身を深淵に躍らせて遂に還らざるの佳人あり此勇美子は己が父母の月に飛び行きて還らずと思へり、彼れには岩下の流れに舟を泛ぶる舟夫ありて此には岩陰の澄潭に綸を垂るヽの老翁あり、彼の佳人謳ひ此巨人も歌ふ、ブレンタノーの佳人は魔術師なりとて捕縛され麗水氏の美少女は遠罪の疑ありてか獄に囚れたり、彼の佳人は寺僧の徒弟に己のが郷國に送らるヽの途一巨巖の上に悲哀を止め此美少女は行脚の僧に父の遺書を傳へられて一巨巖の下に斷腸を極む、是等乃ち其相似たるの點なりとす、然れども余は麗水氏が實にこヽに意匠をかり來りたるや否やは、もとより明言するを得ず。今若し「極端なる人物若くは極端なる事實を仕組みて讀者の喝采を博する事は何人にも出來得るなり且つ寫述するにも凡そ極端の脚色ほど寫述し易きはなし」との、忍月居士が「小公子」に對する如き批評眼を以てせば、此「巨人石」も亦しかなり、見よ無心壯嚴なる岩石と有情可憐の少女、半死の白頭翁と紅顔の美少女、罪惡を集聚せる牢獄と世外的なる無邪氣の少女、娑婆と閑境、鐵窓と廢庵、其人物に於て其命運に於て其境界に於て其光景に於て、多く極端の配置極端の對照ならぬは無しと云ふも、誰かは否とすべき。然れども余はかヽる側面的觀察に左袒する能はざるをもて、是れより少しく居士が「小公子」の批評に就て云はむ。

夫れ「小公子」は余が云はでも知るき極美小說なり、極美小說とは何んぞ、英に所謂アイデヤルノベルなり、アイデヤルノベルとは何んぞ、人間の理想の及ぶ限り善全美完の人物を描て人世を感化するをもて本旨とするもの是れなり。而して主人公已に至美至善なりと云はヾ乃ち其極端ならざる可らずして、是れに對するの人物も亦其正反對の極端なるべきは喋々をまたず。聞く英のリチヤードソンチータスコツト又ロードリツトン等皆極美小說の作家なりと、是等の人は果して極端の人物を描かざりしや、我國には獨り曲亭翁あり、而して彼の八犬士の如き是れ實に極端の人物なりと余は思考す。

吾人はまた居士の云ふが如く、極端の人物極端の脚色は寫述し易くして、非極端の人物非極端の脚色は寫述し難きかを知らず、今かりに一歩を讓りて、彼れを易しとするも、以て極美小說固有の價値を左右するに足らず、是れを難しとするも、以て其價の彼れより貴かるを得ず。アヽさなきだに我が文壇の作家は其所謂難きにのみ就て齷齪しつヽあるに、居士は尚も之れを煽動せんとするか。蓋し小說は寫し難きを寫して文情の濃やかなるを其上乘とすべきにあらず、否な彼のゾーラーの自然主義フヒールヂングの主實主義サカレイの寫實主義のもののみ小說にはあらざるなり、そは言ふ迄もなく居士の知るところ、知て尚冷やかに彼の‖「極端」は老巧なる文人が手腕を振ふべきの舞臺にあらず‖と評斷し去るや、いかに。蓋し世人が嗜好する小說の種類は以て社會の意向を察するに足るが故に、「小公子」が果して世人多數の嗜好に投じたらんには、吾人大に欣喜せずんばあらず、居士は「最早吾文學界は華飾を除けて質實を尊び外形を忌みて內面を嗜むの域に達したりと謂ふべし」と云へども、吾人は寧ろ所謂寫實的小說を飽いて彼の極美小說を嗜好するに至りたりとこそ云はめ、而して此種の嗜好安くんぞ人間の弱點ならん、凡そ批評家の眼孔には小說の種類を以て褒貶するの不公平ある可らず、居士冀くは一考せよ。吾人は實に人世感化の上に於て、擎天架海の力ある極美小說を欲する者にして、未だ其人物脚色の極端と非極端及び寫述の難易如何を顧みるの暇はあらず、まして其文飾に幻花妖月の有ると無きとをや。

余は筆を擱かんとして、ひそかに「明治廿五年の小說界に於ける美人」を想見するに、先づ國民の友に於て、薄命の二少女を得たり、彼の子立痛むべき巨人石の勇美子髑髏憐むべき霜柱の乙世、共に吾人をして泣咽せしむ眼眦一轉女學雜誌に及べば又すヾ子の父に別れし後の述懷と山月子が彼の一夜いづれ淚にあらぬはなし嗟噫今年の文學界何ぞ先づ淚痕の繁き思ひ已れに至て覺へず掩目すれば紅淚また下る事兩行。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

○謡曲通解

大和田建樹氏の著にて、其第一巻を博文館より發兌す。文學上より、謡曲の價値を論じて云く、言語をば文章に近づけ、文章をば言語に近づけんとつとむべし、然せば言語は自づから位を高め文章は自から平易とならん、而して謡曲中對話の詞は此目的を示したるものとぞ信ずる、と。文章改良に關はる、氏が意見は、吾人が大ひに同ずる所ろにして、而して亦夙に主張せし所ろなり。今ま、此の意見によりて、謡曲の通解出で、文學界の一欠點を補ふに至れるを祝す。

○標柱漢文教科書

深井鑒一、堀捨三、二氏の編纂にて、吉川半七より出版す。其躰裁の一に、佳とすべきは、邦人の文を始めに置き、明宋の文を終に置きたるとなり。凡そ、漢文を教ゆるに、たゞ支那人の文章のみを用ゆるは不可なり、先づ邦人の作より入りて而して其源に溯るべしとは、吾人が平素主張せし所ろなるが、今に於て、此教科書を得たり、慶すべきと也。

○日本歴史すぐろく

博文館より出版せしものにて、面白き趣向なり、凡そ「双六」は昔しの作ほど面白く、近來のほど、無味なるが、之は稍や見るべきものあり、且つ益もあり。

○亞細亞人

鈴木劵太郎氏の著にして、政教社より發行す。三宅君の「日本人」の如く文味津々澤々たるものあらず。然れども、人種學上の觀察に至りては、君が長所にして亦た此書の長所なりとす。扶桑の説に至りては、頗ぶる人を驚ろかすものあり、尚ほ研窮を要すべきものならん。方今俠骨あるもの、誰か亞細亞洲の爲に慨歎せざらん。吾人も亦た時事新報の投書家が主唱せし歐洲の中間入説に加はらざるものなり。たゞ夫れ經歷のみを叙して亞細亞人、日本人の力量を示さんとするは面白からず。何んとなれば、最近目前の事實必らずしも之を證かしせざれば也。願はくは、ともに將來の多望を言わん。此點に於ては、實に「東方策」一流の著者に謝せざるべからず。

○小説書類

の批評に至りては、主任者の多事によりて例外に延引したり、左れど、遠からず、之を補ふべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

悲歌一首

雲峰生

西曆紀元五百七十年（一說に七十一年）アラビヤのメッカに一偉人生れき。名をモハメッドと云ひ、成人の後己が信ずる所の宗教を傳へんとて歐洲に侵入せり。左手に經書を提へ、右手に劍を採り、且つ戰ひ、且取り、駸々乎進を知つて退くを知らず、破竹の勢を以て遂にスペーン迄攻入りぬ。尚進まんとせし折から基督教國より豪傑チヤールス、アーテル起り、苦戰七日モハメッドを敗れり。此に於て亦進む能はず、回々教徒止て此處に國を建てき。其國民をムーア人種と云ふ。

中世の末年西國四分五裂、英雄豪士各一方に據り、龍驤、虎視相讓らざりし時フヲルヂナンドとイザベラと婚を結び西國一致せり。此に於て忽ち國力の平均を失し、幾多の小國次第に滅亡に歸せり。ムーア人種フ王に敵し、苦戰十年刀折れ、力盡き、あはれ遂に城下の盟をなせり。時に紀元千四百九十二年。始め建國より凡そ七百年。

始めフ王降をムーア人に促して曰く降らば即ち奉教自由を與へんと。降れるのち其約を破り、頻りに改宗せしめんとし、屢迫害せり。或は刑場に仆れ、或は追放に遇ひ、又は鐵窓に繫がれしもの數を知らず。幾度か叛旗を飜し、幾度か討滅せられぬ。當時ムーア人の都城アルハマ陷落の慘狀を寫すもの即ち左の悲歌なりとす。

原詩はスペーン語とアラビヤ語との兩者あり、今尚ムーア人に之を讀むを禁ずと。蓋し慷慨悲痛の意自ら讀者をして激昂せしむるの故か、其傑作たる知るべきのみ　バイロン亦沈痛多恨の文字を以て之を譯し、題してThe very mournful ballad on the siege of Alhama. と云へり。余亦バイロンの譯を再譯す、苦慮熟思すれども余其妙味を譯出する能はず、一は言語の異ると、一は拙なる故のみ。

グラナダはスペーンの南部にある地名。アルハマはムーア人の都城。其城をアルハムブラと呼べり。アルフアキは人の名。第四節に二種の喇叭を共に吹くは人民を召集するの合圖なるべし。第五節ひな人都人云々、英語には市中と原野の人々とあるを義譯せるなり。血祭を好む神云々、英語には(Bloody Mars)とあり。此類の義譯篇中に多し。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

當時ムーア人の王其臣民を待するの道を知らず、遂に彼悲境に陥らしめし故王に對し人民が憤怒怨恨限りなきの情を表はし、王亦其言語を聞て激怒、叱咤せり、左の悲歌は即ち其有様を寫せるなり。

毎節第五行に「禍ひなるかな」とあるは英語にて Woe is me といふ語なり、沙翁のハムレット第一齣第三段目百六十行にも見えたり、而し其起原は舊約書詩篇第百二十篇第五節の文字なるべし、余は聖書に從ふて譯せり。

アルハマ落城（押韻）上

一 グラナダの　帝京大道を　いそぎつゝ、
むちあげて　ムーアの帝　のり行きぬ。
エルビラの　門をばあとに　打見やり、
目ざすなる　ビバラムブラに　向ひけり。
禍ひなるかな　アルハマよ。

二 おとづれの　書簡は傳へぬ　帝王にぞ、
アルハマの　亡び失せにし　有さまを。
その書簡を　帝はなげぬ　火の中に、
かくてまた　つかひの人を　殺しけり。
禍ひあるかな　アルハマよ。

三 驢馬すてゝ　帝王は駒に　のりかへぬ。
大道をば　尚急ぎてぞ　すゝみける。
ザクチンの　巷路を何時か　過はてつ、
ためらはで　アルハムブラに　馳け込ぬ。
禍ひなるかな　アルハマよ。

四 アルハマの　城のうちにと　馳入りつ、
たちまちに　王は令をぞ　傳へける。
眞直なる　いくさの喇叭　とい出でゝ、
しるがねの　喇叭とともに　ならせとて。
禍ひなるかな　アルハマよ。

五 うつまゝに　遠く聞ゆる　陣太鼓。
なり渡る　音に驚ろく　ムーア人。
ひな人も　都のひとも　そをきゝつ、
大將の　よぶみ聲にぞ　したがひぬ。
禍ひなるかな　アルハマよ。

六 されば いま　思ひ知るらん　ムーアびと、
血まつりを　好む神にぞ　召されぬと。
四方より　ひとり二人と　はせつどひ、
數しげき　人の群衆とは　なりにけり。

禍ひなるかな　アルハマよ。

七　群衆より　老人ひとり　立出でつ、
あはれにも　斯く帝にぞ　語りける。
いかなれば　ア、我君よ　我等をば、
このさまに　此處には召せ　給ふぞや。
禍ひなるかな　アルハマよ。

八　友どちよ　あはれ御身等　知りぬかし、
いとも〱　はかなき樣と　なりにけり。
クリスチャン　勢ひ猛く　せめよせつ、
うらめしや　アルハマ城を　討ち取りぬ。
禍ひあるかな　アルハマよ。

日東の粧飾術　（其一）

譯者曰くさきに日東の美術と題して東京「メイル」より抄譯せしはこゝに掲げむとする粧飾論の序論なり是篇に於ては先づ繪畫の區域に出入して粧飾術の端緒をひらき漸く日東の趣味を窺ひ見むとす。

それ風雅は天下萬世の風雅なり一人の風雅にあらず一國の風雅にもあらずこの故に日東の趣味を評せむとするとき予は先づ之を瀛西美術の標準に鑑みてその正鵠とするところを離れざるべけむ夫れ東西俗を異にせしこと甚しかりしより趣味の外象に見れしこと相等しからず其美術上の價値に至りても四圍の境遇にみちびかれ天來の妙觀に相違ありしは顯著なり左れど題目形像の奈何をとはず審美的正邪の標準は百代不易のものにしてこゝを風雅のまことゝす。ある人難じて曰く瀛西美術の標準を引て日東の趣味を議せむもよし。されどその標準の風雅の大道に協ふやいなやと。理あるかな予がいふ瀛西美術の標準とは（ことに粧飾の點より見て）希臘羅馬のいにしへより緻密なる攻窮を經たるものなり一二の想に偏着したる風雅の僻見に比べては其の眼を寄するところ彌潤し左ればこれ「イングリシ」の個想にもあらずこれ「ジャーマン」の特趣にもあらず「ゴシック」より起りしにもあらず「レナイッサンス」より顯れたるにもあらず。そはこの標準のひとり某の國民某の時代の創見によりきといふにあらずして「イングリシ」「ジャーマン」の美術もこゝに據り「ゴシック」「レナイッサンス」の趣味も同じくこゝに基けばなり。かのイスラエル、ホン、メケネンが彫刻の衣のうへにアルブリヒト、ザーレルの影を落しアルベインをして「イングランド」のヘヌリ八世の爲に風雅のうへの割愛をなさしめきといふも予のいふ標準の外に出でしものならむや。これすなはち百代の標準なり萬民の風雅なり。夫れ羈旅をもて「今」をもとめ搜擊をもていにしへを尋ぬとは絕東の異域に美術のめづらしきを探り「グリース」の舊都に古奇のまれなるを穿り故人の陳腐を牽てこれを現時の新則に驅るものならし是により舊來觀察に得たる理則を以て正を闡き偏を排し而して予のいふ瀛西美術の標準にこそいたりけめチンダルの語の中にも先創成之而後辯論之辯論之而後闡明之理則可得とぞいひけるは頗る予のこゝろを得たるものなり。

聞く日東の文化は之を漢土にうけしもの多しと然れども予や淸朝の美術に通ぜず況んや雞林の風雅に於てをや是によりてその淵源をさぐるによしなしと雖も日東の美術こそまさしく瀛西の天地に紹介せられて其固有の光明をかゞやかすの期は吾美術の標準に昵近して是が爲に其舊來の理想を西人の腦髓に注ぐの曉といふべしいでや予をして少しく其木鐸を擊つの一人ならしめよ。

いま日東の粧飾もと其外物よりうけたりし感化とを評論せむとするに當りて讀者に示さむと思ふこと一にして足らず予は先づ本題を破らずして少しく讀者と共に日東美術の岐路に逍遙せむ。

蓋しそのひとつは日東の書法なりそは誰が目にも美術の創作に大なる影響を及ぼさむさこそ見ゆべけれ見よ夫れ飄然さして毛管を揮ひ一たび墨痕を「自然」に落すさきは一片の奇字たちどころにぞなる之を驚毛に細字を彫むものさ比べたらむには其相違いかばかりぞや西人の眼より之を見ば蜘蛛の墨壺を出でたるのち逍々たる紙上を匍ひたらむが如し然りさ雖も日東の人よりこれを見ばまことに一の美術なりけり。思はめやこの蜘蛛的書法のうちに於てめでたき曲線の美をあらはし雄放飄逸の趣に富まむさぞ。瀛西の天地にありて字形を規矩の間に作り角度の外に奔逸するの餘地ふきさのみ思ふもの誰か春の日に手習草紙を乾し清泉毛筆を洗ふの日東を夢想し得べき夫れ朝さなく夕さなく筆をさりてはこの業に浸淫し幼き頃よりして既に其應用さ品評さに熟達したる日東の美術家が美線を畫くに絶倫の妙地を出せるはもさより怪むに足らざるなり。形象の簡にして單なるがうちに無限の決果を籠めむさする美術家はかゝる筆意の小曲線を見て故人に遇ひたるらん心地やすべき。

予はすでに日東美術家の書法に於る感化をいへり是によりて其婉曲なる美線を畫くの地さなりし所以を論じたり夫れ婉曲なる美線を作るさはこゝに繪畫の精髓を得るの謂なり是故に日東美術のうちに於てまことなる「批評」の前に出で來らむもの予は先づ指を繪畫に屈せむ見よや天地の生命を縮めて之を其筆端に弄すれば墨痕の雨を喚び月を吐くはおろか曲線のいやがうへにもめでたきはおろか僅少なる畫圖にして靈涌き火迸り自然幽玄のこゝろをこゝにさゞむ瀛西の畫家萬線をあつめて一美を畫く日東の畫家は一線をさりて萬美を畫くさやいふべけむ左るは神來の秘訣を得て之を其籠中に蔵せしものか是故に心を日東畫圖の天地に放ちて細魚春水に溯り黄鳥南枝に囀るの境を見よかれは隣々さして生けるが如くこれは綿蠻さして聲あるが如く畫伯の「マッスル」躍如さして見るもの〻眼に浮ばなむ左るにても是わづかなる一落筆に過ぎざるのみなり噫日東畫伯が其美線を弄ぶの妙なるは渠儕をしていさ難きさころに長ぜしめ反て易きさころに弱からしめき日東の畫家に對して瀛西批評家の非難する欠點さは沈靜なる畫題をさりてこそまはいはめ活動の畫題をふらみてはあながちさ覺ゆるふしのみぞ多かる。

予は粧飾術の端緒に入らむさして反て日東の民が畫法を粧飾に用ゆるの傾向を認めたり是によりて心にもさるさころ少からずさ雖も一旦歩を轉じたるの故をもて更に讀者さ共に畫路をたどり吾粧飾術の本旨に出でむさす。予は繪畫に通常二法ありさいふべし舊來日東の教育は多く着色光線の妙を備へたる畫法を貶して婉曲なる美線のかたを撰ぶ是故に畫骨を悉く曲線に委れて着色さ光線さをわづかなる客位にのこすに至れりこの骨ばかりなる畫法さは是日東美術家の手に依て完成の域に發達したりき渠儕はこれをもて一の術さなせしのみならず一の美術さなしたりけり渠儕は線を弄ぶの後に隱れて想を弄ぶ想を弄ぶの後に隱れて神に入りぬ僅少ふる線のみを用ゐてぞこゝに無限の意を寓するは蓋し入神の境にあればなるべし夫れ人の腦髓の反想に饑えたるさきめづらかなる畫圖を觀て其幽玄なる姿情に接せむは心に彌高き愉快を感ぜしむさいへり左ればこの骨ばかりなる畫法の區域いたく狹くして山河に「自然」の聲を聽くごさき風趣を通ずることさ少しきなる點よりいへば日東の長所なりし畫法は反て是れ美術のいや卑きさころに位すさやいふべき然りさ雖も其ひろからぬ區域の裡にありて一線ごさに山河の聲を發せしむこそそのめでたかるべきさころなりけれ。

いでや讀者さ共にこの畫路を轉ぜむ。予はすでに日東の民の繪畫さ曲線に巧なるを説きぬ爲ぞ知らむ渠儕は是二巧を驅て悉く他の「アート」に酷使したらむさは。この故に雲を捉えては百の粧飾を凝し波を擊ちては百の粧飾を爲りぬこれ雲を捉え波を擊ちて始めて之を粧飾の區域に送りしものは日東の民なりさいふの意にあらず漢土にはこのたぐい多しさ聞けば蓋し他の美術さ共に是國に傳りしものなるべきか。左はあれど其因緣さ起源さは敢て予の知るさころに非ず予は今その發達さゝもにありて日東の美術家がこの雲波のふたつを御し之に千百の變化を應用せしその巧の前にぞあるのみ。

隨感

熱海の梅園

花圃

二月三日、叔父叔母に伴なはれ、熱海なるそが家に夕つかた、いたりつきぬ、ある日すゞろありきのなへに、かねてかたりし梅園見せばやといざなはるゝまゝに、山田の畔つたひ、やうやくのぼり行、山のかげ道のこゝしきを、蝙蝠傘に助けられて、すゝみゆくに、あしつかれ、あゆみくるしう成もてきて、かゝる山中にさるものあらん事いぶかしうおもへど、さすがにうちもとはで、しりへにしたがふ心もとなき事限りなし、遂にかゝる人氣なき所に梅園あるといふなんいぶかしきとつぶやけば、おばおのれをかへり見て、さのみ遠き道ならねど、なれねばしかいふも理なり、これをこそ天國に昇らん道ともたとへつべし、汝がわれらを信じ、梅園へ行かんとおぼつかなき山路をのぼるは、イエスを信じ救を天國に求むるも同じき也、なほかたく信ぜよ、とみにいたりつくべしといふ、これに力を得て又ゆきゆけば、山のかに道に、咲みちたる梅もまばらに見ゆ、其下にさゝやかなるくひうちて、「梅ぬすむ人はもらすか天のあみなどてふ發句めきたるもの土地の者のすさびなるべし二ヶ所計りかきしが有てみやびある心、何となくゆかしかりし、楠の木茂りて小くらき道を通り過れば、あなたに、石橋みえてわら屋淋しげに立、石橋のもとにさゝやかなる碑ありて漸佳とぞしるされたる、げに梅の香馥郁とかをりきて心すゞしく、風暖けく吹て二ッ三ッ花の散くるさまえもいはれず、園に入て見ればいとも〳〵ひろうしなしたる所にてゆけども〳〵とみにはつくべうもあらず、清きながれに又石橋ありてこゝに又迎月てふ、いしぶみたてり、うちみればむかひの山たかく聳へ尾上よりさし出む月の光、こゝに待とらば、さこそとおもひやられ、かの羅浮山の古事おもひ出、こゝにいつ迄もかくてありへてしかなとおもほゆ、阿屋の小やかなるもこしかけやうのものもこゝなるは仙人のすまゐけんあとのごとくちりのうき世のがれし心地してかのかゞやく園にたゝへ玉ひつるもうべなりとおぼゆ、しばし佇みあなたを見やれば、山のなかば迄梅園のつゞきたるさま、むら消殘る雪のけしきにまがふ計なり、雪とおもひやれば都なる人々、さこそ、きのふ今日の大雪になやみ、埋火のあたり、立うくてやあ

らん、さるをかゝるさまかたりてあたら浦山しくおぼえさせてんも、罪えがましけれど餘りの樂さに、もだしあへでなむ。

冬しらぬあたみの里に白雪と
　見るは盛りの梅にぞ有ける

○婦人は献身者なり　みどり

或人、今の日本に女性の献身者尠なしと歎く。われ、之を誤まれりとして解すらく、女性は天然の献身者なり。もし何事かの爲に身を献ずることを得ずば安んぜず、心快々として樂しまざるものなり。丈夫の憂ひは成さゞるにあり、婦人の歎きは愛せざるにあり、もし何人をか愛し、之が爲めに何ものをも捐て、遂に其全身一命をも之が爲めに献ぐるに至りて初めて樂しむ。之を婦女子の天性とす。フランセス、ウイラードは良人なき老處女なり、されど曰く、女には是非ともホームなかる可らずと。その所云るホームとは、一心を擧げて助け盡すべき相手の人と同居するの謂ひなり。之を婦人深衷の希望とす。余は、日本の女性にのみ献身者少なしとは信ぜず。目前現に見る婦人の多くの事業は、大抵皆な献身の精神より發すと信ず。

寄書

愛敵心　甚内子

爾曹の敵を愛み爾曹を詛ふ者を祝し爾曹を憎む者を善視し虐遇迫害ものゝ爲めに祈禱せよ

今や總撰擧は眼前に迫り所謂吏黨民黨と稱するもの迭みに鎬を削り腕を摩し兩軍壁て生死決せんとす、是に於てか紛々擾々殆んど寧日なし、既に立憲政體たり既に輿論政治たり、多數を議院に制せざれば其意見を實行する能はず故に其總撰擧たるや勢ひ多少の紛雜を免れず是れ殆んど已むを得ざるの事たり、然れども爭ふに道あり戰ふにも禮あり、要するに公明正大俯仰天地に耻ぢず好んで其惡を知り、惡んで其善を知り、尤も敵を愛する底の大度量なかる可らず、徒らに他を嫉視して小人となし、惡人となし不倶戴天の敵の如く思ひ、睚眦の些事と雖も毫も假借する所なく蚤取眼を以て他の欠所を探索し他に向つては成る丈け失敗過失の多からん事を期するが如きは余其可なるを知らず何ぞ況んや此立憲治下の民にして腕力暴力を逞ふし他を襲ひ他を傷け他を殺し伍を爲し隊を組み凶器以て相臨むに至りては其れ何の語を以て評す可きや。

君聞かずや不識庵其敵國に鹽を送り機山の死せしを聞くや泫然涙を揮ひ箸を投じて、アゝ我好敵手を失へりと嘆ぜる事を又た聞かずや陸抗羊祜に酒を送りたるに祜飲みて更に疑はず、抗疾むと祜之に藥を送りたるに安心して服用し豈に人を酖するの羊叔子ならんやと言ひし事を其れ晉と吳とは氷炭相容れざるの敵國なり而して陸抗羊祜實に其都督たりしにも拘らず洒々落々胸中一片の芥滯なく各々陰險詐畧を用ひずして相對せしに非ずや今や世は立憲となり治太平を稱す昂然皆な曰く立憲文化の國民なり彼れ外人の議院政治の不適當を稱する何する者ぞ然れども寧ろ知らん其擧動の野蠻なる却て專制時代人士に耻る者あらんとは、「日比憎き烏も雪の晨かな」其れ國事を料理せんと欲する者其私心を去り公正なる擧動を爲さゞる可らず今の黨を爲す者乞ふ他の長所に暫く一瞥せよ。

余は又た故らに吏黨の諸士に望む可き事あり其れ超然主義の實行覺束なきは諸士の既に知れる所なり故に今後門を開きて正々堂々男らしく其主義を告白し以て衡を爭ふ可し是實に雄決す可きの事なり是迄の政畧餘り嚴峻に、餘り秘密に、餘り干涉なりしなり是れ其受けざるとも濟む可き恨を受け恨重なりて遂に今日の紛雜を惹起したるには非るか、昔し孔明孟獲を擒し其陣營を見せしむ獲曰く前に虛實を知らず故に敗る今營陣を見る若し其れ如此んば勝ち易からんのみ、と亮笑て之を縱ち以て戰はしむ、七たび縱ちて七たび擒す亮猶ほ縱ちて戰はしむ、是に於て獲大に服し公は天威なりと嗚呼大丈夫天下に立つ須らく這般の大度なかる可らず如此にして始めて大事を處するに足る今の吏黨たる者何ぞ决せざる其れ堂々其主義政畧を告白し天下萬人の前に於て公然勝を制す是れ眞の勝なり此れ實に公等の萬歲なり是れ實に邦家の幸福なり若し其れ更らに改むるなく滔々渾々今日の勢にして止るなくんば紛々更らに紛々擾々更らに擾々實に由々敷大事の生せんも未だ知る可らず此時に於て周章狼狽其措置を失し上陛下の叡慮を痛ましめ下蒼生の望みに負き見す〱百代の物笑ひとなるが如きは實に公等の爲に取らざる所なり。

時事

○鳥の雌雄

白紙上、黒印字の點々たるを見るのみ、誰か記事の眞僞を知らん。撰擧畢らざるに當ては、容易く新聞紙の報道を輕信す可らず。

○機一瞬

眞正勝敗の機は、殘る三日間に伏す、漠然たる胸算に安んじて、もし此の殘日に油斷せば、豚火乍まち消えん。双方ともにシッカリすべし。

○聖代名臣錄

其長所を擧て、短所を言はず、其和衷を希ひて、擠排を防ぐ、我が「日本」の任ずる所ろ偉なりと云ふべし。

○塩原多助

歌舞伎座にて演する「塩原多助」は、非常の感化を與へたり看し人は歸途、車にも上らずと云へり、「奢是吾敵」は議論なり、演劇は是れ實事に近し、常人を導くは具躰的より入らざる可らず。

○孤女學院

震災地より來れる孤女十四名は、最長者十二歳にして、最幼者は、生後十五日なり。斯の子が母、倒屋に打れて、今や、目一つ、手一つ、足一つとなれり。幸にして斯の子を生み、斯の子幸ひにして女兒なりしかば、今や院に入りぬ。願はくは其健やかに長ぜんことを。而して世上温繦の内に包まるゝ緑兒の母は、實に涙謝せざる可らず。

○新聞紙上戰國策

新聞紙の傳ふる所ろによれば、各選擧區概して大戰塲の如し、人々皆な刃を提げて相鬪ふものに似たり。而して傷つくものゝ至つて少なきは何如ん。以て其爭鬪の實況を察すべし。太平の新聞記者、戰事に慣れず、慌として頗ぶる記事を大業にす夫れ諸君の筆は輕しといへども、新聞紙は公紙なり、其の海外に反譯せらるゝことを忘る可らず。

○傷者何れにある

而して其僅かに傷つけるものを見れば、多くは所云る民黨の人なり、吏黨果して勇猛なりや、警察官果して防止すると能はざる乎。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女報

可愛子編

●皇族御旅行　有栖川熾仁親王、仝妃殿下は去る七日逗子へ赴かれ、同妃殿下は同日午後五時卅五分、熾仁親王、幷に威仁親王殿下同妃殿下は午後八時、孰れも御歸京遊ばされたり。

●女子教育の近況（六件）（讀賣新聞摘要）

◎一人娠に聟八人の時代を來さん高等女學校華族女學校、若くは明治女學校其他の各女學校は、素と皆賢母の製造を目的とし、孜々其業に力むと雖も、仔細に觀來れは其成蹟に至ては亦蹙眉すべきもの少しとせず、聞く當代高等の教育を受けたる婦女子は滿二十歳を超えて猶嫁せず、或は女教師となり、通辨となり、將た女壯士となりて、天下に横行する者其數既に十萬を過ぐると、我國四千萬の同胞は其割合男子に强くして女子に弱く、女子百人に對する男子の數は平均百〇二人三人乃至三九に當る、故に十萬の淑女が或る一種の教育を受けたるが爲めに、遂に斯る不具者となり、他の女子之れに倣ふて漸次其數を增さば、將來一人娠に聟八人の時代を來して其弊遂に言ふべからざるに至るべし。

◎當路者の意見亦二派に分る　女子教育の方針に付ては、文部及大學の當路者中其說二派に分れて未だ一定せず、即ち甲は從前の方針を執り、愈々智育の範圍を擴張するに在りて、乙は斷然德育の範圍を擴張し、以て智育の程度を節するに在りと今其持論を行爲の上に卜すれば、是等當路者の多數は、皆其子女を宗教的、若しくは儒教的及び西洋心醉的の學校に托して、高等、華族、明治の三大女學校中には唯一加藤弘之氏の令孃（華族女學校）あるを見るのみ。

◎家塾　英國に家塾と云ふあり、之は學術教育よりも家政薫陶を專らとし、婦女子に一家の持ち方即ち人の妻となるに適すべき學問を授くるものにて、寧ろ德育法なり、西村茂樹、金子堅太郎等の諸氏が盡力さるゝ本鄉の靜女塾は、全く此仕組にて、岩崎氏の令孃を始め、勅奏任官の子女、皆校長女史と同居し、木綿の衣服つい丈に着なし、授業時間の外には襷をかけて座敷又は庭前を掃除し、飯を炊き水を酌み滌ぎ洗濯より頁人舅姑に事へること、來賓の應接等まで仕付くるゆゑ服裝も從ッて優然として穩かなり。

◎道德會　是れは婦女子に德道の事を講じ聞かす爲、佐野常民、西村常樹等諸氏が盡力さるゝものにて、兼ては面りに諸禮の實相を示すなり、侯伯子の賢夫人等自ら之れが眞箇の標準となられて、効積稍舉れり。

◎道德會の三夫人　毛利侯爵夫人、谷子爵夫人、山路夫人、之を道德會の三夫人と云ふ。

◎伊藤伯と婦人奬勵會　伊藤伯は仝會を分離せられんとす。

●山尾子爵夫人の死去　山尾子爵夫人は久しく病氣の爲め惱み居たるが、此程より一層病勢加はり、去る七日午前十一時、遂に死去せられ、十日午後一時出棺、品川海晏寺に葬りたりと、惜むべきことにこそ。

●明治女學校生徒寒中の朝稽古　同校武道科の生徒は、寒中每朝道場に於て薙刀を稽古せりといふ。

●女子教育と武道　女子に武道を教授するは、阿轉婆となるの恐ありと論ずる者あり、されど是れ未だ武を知らざる者の言なり、武道の力は却て輕佻を化して沈着とし、亂暴を化して沈勇とす、論者宜しく女學雜誌第二百七十一號と二百七十二號の社說及び女學生第十四號の社說を讀むべし。

●何ぞ膽の小なる　中原の鹿を逐はん爲め、糟糠の妻を堂より下し、秋風吹かざるに破鏡の悲をなさしめんとす、此の如きの小膽漢、胡爲ぞ國家の重事に容喙せんとはするぞ。（東京日々新聞）。

●藝妓　弘めの廣告を以て當美人を賣るものあり、邦人廣告の手段、亦漸く狹猾ならんとす。（東京新報）。

●怪しの裁縫教授　家には二三名の美人を置き、表には立派なる裁縫教授の看板を揭げて、近隣の女子を集め、裁縫を教授する傍ら賣淫の媒介を爲すの家、昨今市中に出でたるを以て其筋に於ては專ら取調べ中なりといふ。

●婦人會起らんとす　過ぎぬる年の事なりしが、茨城市に婦人協會の設置ありて一時は中々盛なりしも、次第に出席する婦人減少し、爲めに其協會はいつしか消失しが、昨今又婦人團結の必要を感じて、藤本某、谷口某などゝ呼ばゝる女史には婦人協會を再興せんとて、熱心に奔走し、大分贊成者も增加せし由にて、本月中旬には開會の運びに至るならんと。

●甲州の晴好紗　女官の禮服地、又は神官の狩衣直垂等に用ふる晴好紗の織立は從來西陣の專有なりしが、近年甲州郡内に於て織出すものには、隨分上等品もあるより、今度之を米國博覽會へ出品せんとて、紋柄等の考案を美術學校へ依賴したりとぞ。

●製絲工女の渡米を見合す　信州諏訪郡の製絲家は世界博覽會に工女を出し、製絲の實況を示さんとの考案ありしか、元來本邦の生絲今日の聲價を有つもの、全く工女の獨擅なる技術に依るものにして器械の美、誇るに足るものあるに非ず、然るに今工女を渡米せしめ、實地に其模樣を見せしめたりとて、外國人をして珍奇の感想を起さしむるの外、彼に益なく我に益なしとて、右工女渡米の事は遂に見合せたりと。

●藤澤婦人教會　東海道相州藤澤町本願寺派光勝寺の住職武田惠鳳氏を始め、檀徒總代廣瀬其他世話係諸氏の盡力にて、婦人教會を結び、去る二十一日大磯本願寺教會場詰なる津田道龍氏を請して發會式を行ひ、大磯より島津忠寬氏を始め、家令家扶女中等も參詣あり、最と盛んなる事なりしと。

●京都府立高等女學校規則改正　京都府高等女學校は、此度規則を改正し、入學試驗等の程度等を改め、且つ每年五月二十八日、即ち皇后陛下の御誕辰は休業することゝせり。

●老女村岡の追弔祭　今回贈位の榮を得たる故村岡女は、京都府下葛野郡嵯峨村の出生にして、現今にては殆んど絶家の有樣なるが、同村の有志者小松喜平治氏外十數名の諸氏は、右贈位告祭を執行し、尙は同女の爲めに嵯峨村淸涼寺內に一の庵室を造らんとの計畫を爲したるに、既に有志者より二百有餘圓を醵金したれば、近々工事に着手するよし、尙ほ同女は近衞公爵との緣故頗る深かりしが故に、庵室額面の揮毫を近衞公に依賴する由なり。

●矯風大演說會　一月二十三日、浪華教會に於て、大阪基督教徒婦人會の催しに係る矯風大演說會ありたり、ケレー夫人、三宅教師演說し、聽衆百三十餘人ありき。

●大坂梅花女學校教頭の交迭　前教頭望月興三郎氏は心臟病の爲めに辭して神戶に療養に赴かれ、後任として越後新潟北越學館の教授たりし麻生正藏氏來られしといふ、又望月氏は保養の傍ら、松陰女學校を助けらるゝ由。

●梅花女學附屬小學校教員　木村鎌太郎氏は、去る八日病を以て沒せらる、伊豫の人深谷俊雄氏代て同校主座教員となる。

●ミスプラオン　女學雜誌の愛讀者にして、神戶英和女學校の校長として、多年教育に熱心盡力せられし同女史は、本邦滯在十年の期滿ちて、一先づ歸米休養せらるゝ由、出發の日は多分當夏頃歸り來らる、同校教師ミスソールの歸校後なるべしといふ、而して故國滯留は凡そ一ケ年半なりと、又都合によりては、英國に渡りて多分の日月を送らるべしともいふ。

●神戶英和女學校の割烹場　は同校の東隣に在る某氏の舊屋中に設けらる、先づ當時在校の卒業生九名をして之を練習せしめ、時々教師諸氏を招き饗應せしめ、此方法にて成功を見ば、之を擴めて他の生徒にも及ぼすとの事。

●松陰女學校　は神戶生田の森の後丘に新設せらる、校長は英國ロンドン高等師範學校卒業生ヒルケンヘッド孃なり、當校は從來の女學校教育の諸弊を看破し、日本の進度に適する女子を養成するを目的とし、學科の如きも可成高尙なるものを省き、實用を旨とし、學年の如きは本邦女子の嫁期に着目して、豫科二年、普通科三年、合して五年の課程となし、學業の中途にて廢學するの不利を防ぎ、入舍生をば家族主義を以て管理し、家政の道をも學ばしむといふ。

●泪を揮ふて良人を諫む　宮城縣名取郡閖上濵に去者ありと聞えたる橋浦貞助氏は、前度の負軍を遺憾に思ひ、今回の總選擧こそ願ふ處なれ、あはよくば切て出で見事勝を制せん者と出陣の準備頻りなる折柄、不幸にも養子某氏の死去に遇ひ暫らく猶豫しつゝありけるに、遠藤氏の候補者たるとを斷念せし以來、改進黨派に於ける運動の捗々しからぬより、愈々己れ切て出んとの存念を、細君は早くも推し、今まで養ひ子の家事を整理しつゝありしものから、彼れ亡なりては誰か又整理する者あるべき、去るに家事を打捨て、よしなき競爭に金員を浪費して、何の益かはあるべきと、既や打出んとする貞助氏の袖に縋り、今回も全勝の程覺束なく侍るを、益なきとに力を勞し玉ふよりは、家事上に心を用ひさせ玉へかし、是は妾が何ぞの時の用にもと貯へ置けるものなれど、只今おん身に參らすべければ、是を以て借入玉ひし軍用金にてもあるならば、其を償ひ玉ひ、政黨とやらの手を切つて、此度は平に思ひ止まり玉へかしと、泪をハラ〱と流して、諫むる言葉の切なるより、遉が剛勇の貞助氏も終ひに思ひ止まりしものなりといふ、操の鏡曇りなく、軍の門出を喰止めしは、此の處大出來にこそ、と東京新報に見ゆ。

●長岡婦人會　越後長岡の同會は、去る三日午後七時半より、坂の上町基督教講義所內に於て開きたるが、來會者無慮六十有餘名。

●共立金澤女子授産場の趣意　納富介次郎氏の發起に係る仝授産場は、日を追て盛大に趣く由なるが、いよ〱去月三十日を以て、其規則等を完成せり、今其趣意なりとする處を聞くに、凡そ女子の特性に基き、美術手藝を以て賤業力役の陋習を脫却せしめ、而して織物を以て一種の金澤特産となすに在りと。

●産婆卒業證書授與　嶋根縣周吉郡西鄕町に設立せる公立隱岐國産婆講習所に於て、十二月十五日卒業試驗を行ひしに、講習生十六人悉く及第せしに依り、同二十日卒業證書を授與せり。

●高知縣尋常師範學校女子部生徒　は今度同校教員が議員撰擧に關係したりとて辭職を命ぜられし所置に對して不平を抱き登校せずとの事。

●廢娼論　伯州會見郡の畑忠太郎氏は第二期帝國議會へ廢娼請願書を提出せし間もなく議會の解散せられしかば本年の議會にも請願書を送りて是非意見を貫徹せんと目下奔走中なり。

●婦女矯風會　北海道新十津川村內女子の言語風俗は、兎角野卑に流れ遊り、殊に近頃は天倫王と云ふ宗教の如きもの行はれて、益々女子の惡風を養成せんとするより、全村北海道教育會員七名相謀り、此等弊風を矯正せんため、婦女矯風會なるものを起し、去月十六日發會式を兼れ、第一回演說會を下德富小學校に開會せり、當日は聽衆無慮二百四十餘名に達したりと。

●裁縫速成教授　新十津川村小學校教員小山恒次郎氏は、村內婦女子中に裁縫を知るもの少きを歎じ、昨年十二月一日より妻君をして積雪中五ヶ月間卒業の見込を以て、和服裁縫の速成教授を始めしめたるに、爾來受教申込人非常に多く、目下四十一名の多きに達し、尙ほ續々申込もの多けれども、教場狹きが爲めに謝絕する有樣なりと、又た去月十一、十二、十三の三日は第一回小試驗を行ひたるに、頗る好結果にて、來四月中に卒業するもの十八名ある筈なりと。

●北海道蓬萊町貸座敷并に藝妓待合所の收入高　其筋に於て昨年一月より仝十二月まで蓬萊町貸座敷并に藝妓待合所の收入金高を調査したるに依れば、貸座敷の收入金總額は八万二千七百九十八圓九十二錢六厘なるが、內酒肴料六万三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

千三百五十圓六十六錢八厘、娼妓揚代一万七千九百三十五圓二十五錢、藝妓坐料千五百五十三圓二錢八厘等にして、此の登樓客數は四万四千九百七十四人なりさ、之れを平均すれば一軒に付き收入高三千九百四十二圓八十錢にして、一ヶ月一軒平均收入三百二十八圓六十錢に當れりさ、又仝藝妓待合所の收入金總額は二万二千十九圓九十九錢線香代のみにて(特別の收入を除く)にして、此の藝妓總人員は一千百八十五人なり、之れが總收入高を平均すれば、一ヶ月收入千八百三十四圓九十九錢九厘にして、更らに藝妓一人の働き高を平均すれば、一ヶ月十八圓四十九錢强なり、更らに藝妓一ヶ年延人員千百八十五人を平均すれば、一ヶ月九十八人强なりさか、以て不生産的浪費者の夥多なるを推知すべし、噫。

●室蘭の風俗大に紊る　北海道の娼妓貸座敷は、何れの地方にても市街の片隅抔に設けあるが常なるに、室蘭港は全市街遊廓域內さも稱すべき有樣にて、此處彼處通常人家の間に散點混合し居り、一定の區域さては更になく、其不躰裁極まると言語に盡し難く、賣婦は晝夜の別なく市中を横柄に往來し、其弊言ふに忍びず甚しきは小學校舍と貸座敷との距離極めて近く、其間僅に三十間に過ぎず、咿唔の聲さ絃鼓の音さ相和し、生徒は目常に妓樓の有樣を見て、其精神上に及ぼす感化の甚だ少からぬヿに在り、又惣代人組合頭取の公務に當る人の、多くは貸座敷の主人なるが如きは、他に對して深く耻づべきヿなり、嗚呼廢娼の必要、是に於て乎益々迫る、義人何ぞ起たざる。

●西京通信　◎當地より今度高等師範學校に入學せし女生は、尋常師範學校生は河合きぬ子、安谷けい子、關口しづこ、中西てつ子、前川よし子、高等女學校生、大槻さき子、佐伯つや子の七氏なり。

●長崎通信　◎大島咲子、井上政子右兩氏は震災地負傷者の慘苦を傍觀するに忍びず、昨年十一月十六日九州を發して該地に赴き看護に盡力し居たりしが、去る一月廿三日當地活水女學校迄歸り來られたり、兩氏は市の枝に十日間一の宮に四十二日間滯在して、熱心に看護せられしが、其懇切にして活潑なる働きには孰も感心せざるなく、該地出發の時などは、患者は袖にすがりて離別を惜しみしさ云ふ、兩縣廳よりは特に賞品若しくは賞狀を附與して其功を賞せられし由、又該地より八才の一少女を携へ來りて活水女學校に教育方を依賴されたり、此少女は下腹部に大傷を蒙り、其上半身泥砂に埋り居たる所を、他人に救上げられ、後兩氏等の看護によりて全癒に至りしものゝ由なるが、後々は賤業に陷らしめらるゝの恐ありしを憂て、兩親納得の上遂に此地に連れ歸られしなりさ云ふ。(因に記す大島氏は熊本メソデスト教會、井上氏は柳川メソデスト教會在任の婦人傳道者にして、共に熱心傳道に從事し居らる)。

●フランセスホッヂソンブルネット夫人　當今龍動に在住中なる小公子著者たる同夫人近頃賽物師が娘(ゼーショウマンスドーター)さ題する書を著はし且ッ彼の名高きロヤルチンアターに於て自ら出席し其を演劇せんさ企て居らるゝさ云ふ。

●フランセスウイラード女史　過日來病痾に苦しみ居られし內女史は大にはかばか數快方に向はれぬされどそが疲れさ加ふるにエーメス娘が葬儀の際の激感さにて今猶疲勞し居らるゝさ云ふ。アンナゴルドン孃も又グリッペ病に患まれしが同く漸快に向はるゝさ云ふ。猶又エーメス孃の遺族さ供にボストンより來たれしエシサベスゴルドン孃はレストカッテーヂに滯在中なりさ云ふ。

●クラーバトン女史　赤十字アメリカ國民同盟會々長なる同女史は過日來合衆國より魯國の窮困さる貧民に給せんさ運漕せる穀物に關して商議を開かれつゝありしさ云ふ。

●奴婢養成所　召使さ云ふ問題に關し感起せる所の同志婦人等は去る頃ワシントンなるジョン、エー、ローガン夫人が住居に於て集會を催されぬ、當日ニウヲルレアンズより來れるイービー、デー夫人の感ずべき發議により遂に之が爲一の職業同盟會を設くるヿに決せり、先づ第一に黑奴娘女をして家事整理法を練修せしめんさて場所及創業資金の約束既に整ひぬ、而して學校も最初さて評議會之を擔任すべきも後來は自治自助の方法にせんさの企なりさ云ふ。

●和蘭國女王陛下の御消日　年齡漸く十を以て數へ奉つる幼なき和蘭の女王陛下が御消日の樣を承るに陛下にはヘトルーなる宮殿に近き小島にて家政上の種々の事を實習せられ其が島には或は家鷄の養育場あり或は花園ありて皆御手づから之を保育し又は播種培養せられては美しく咲きたる花は之を集めて御母皇の御室を飾り又は住ひの殿に在りては特に設けたる小さき割烹室にて菓子などを製せられ然して又時には團欒室にて愛で給ふ所の人形などを以て祭の似などを爲し慰まるゝさ云ふ。

●日本在留の傳道者死す　東京築地四十九番館に居住するフランクリンナイッ氏の妻アリスルイザは今より二年前傳道の爲め遠く北米傳道會社より我國に來り居られしが遂に去る一月卅日の木曜日艮人及八ヶ月の嬰兒を遺していさも穩かなる永眠に就かれぬ、大凡其十日計以前微恙を感ぜられしさ思ひしが病狀急進し遂に目下流行の天然痘さなり其病勞さ云ひ高き熱度さ云ひ初より到底快癒の程望なかりしさ云ふ、其他同家に在りて專ら夫人を看護せる外國人も同病の侵すさなりしが幸ひに輕症にして漸快に向へりさ云ふ。

●トルストイ伯家族の働　今般の魯國飢饉はトルストイ伯家族の美質に非常なる感動を與へぬ、薄運者救濟に付ては伯が全家族幼子女に至る迄擧て其が財産も時も力も出來る丈の方法を献げて之に力を盡されぬ、家族は名々諸方に分離し秩序整ひたる救濟所を設け己の身に付くものは勿論國外諸方より集り來る寄送金及品物を政府の力を借らずして便利に分與する等實に献身の美動を爲せり。此かる中かにも同國の弊さして僻みたる官人等は氏が家族の行爲を惡しさまに考へ之れ必ず謀叛の手段なりさて皇帝に奉上せりさ、事伯夫人の知る所さなり遂に御前に素志を陳奏し遂に皇帝をして同氏家族の忠烈なる事及其働きの單に基督教主義慈善の精神に於て他意なきを深く信ずさの御語を爲さしめぬさ、又夫人の語に此度の慘狀ば決して外人の想像の及ぶべくもなき樣にして加ふるに疫病起り人民は一層の困苦に及び現にトルストイ伯の一子も又薄運者を見舞へる折柄同病に侵され甚だ氣つかわしき樣なりさ云ふ。

●魯國に於ける天使　又又同伯夫人は同國薄運者が實に天使の如く尊めりさ、過日夫人がモスコー府諸新紙に寄せたる誠心込たる記事さ實に階級身分國の何たるを問はず多くの人々をして夫人を訪ひ應分の喜捨金を送らしめぬ、即忽にして數十金を得直ちに之を諸所の救濟所に離散せる子女が許に送られしさ云ふ。

震地傳道隊報告

婦人矯風會録

震地傳道隊　第十五報

兼て計畫したりしか如く名古屋の公會演說もなし終り教會の毒蟲の如く想ひて身ぶるひせられたる夫の壯士も我隊か親しく接して之を說くや乃ち釋然として悟る所あり其反對する理由も唯た馬鹿らしくも我教會の或るものか餘り過分に遠慮をなしたるか故に贈ためし位の笑話に過きす三四年の間爲めに我基督教の公開演說會あらさりし程なりしにも拘はらす第二夜の我か演說會には壯士等來て俯伛の妨害に抵抗したるか如きに至れるは實に一奇觀なりと謂はさる可らす思ふに

敵の狀勢を圖らす

徒に戰畧を講する將軍は吾儕か親友にあらさる也或人は云へり壯士の如きは共に論するに足らす共に爭ふに屑からす故に壯士と喧嘩するか如き夫の傳道隊は此の名古屋に必要なし吾人は須らく堂々たる教師牧師を東西より招きて以て盛會を催ふすへしと彼の言固より可也吾儕亦同感の一人也故に壯士とは喧嘩せさりし也論爭せさりし也唯た心情を明々地に談し手を握りて其妄を正し其疑を解きたりし也故に終に彼等は宿に來りて道を問ふ數次或は夜を更して宿り去りたるものすらありき故に亦吾儕は或人の如く壯士に向て語を左右に托し遁けさりし也又還へさりし也或人は壯士の頭分か當時獄より出て居たるを恐れたり然れとも吾儕は却て之を喜ひたりし也殊に

壯士傳道

の如きは目下我國の問題として大に價値を存するもの也若し彼等果して不生産的の人物なりとせは須らく悔改せしめ以て邦家の良民となさゝる可らさる也浮浪壯士の中豈人物なしとせんや哀を教會に請ふ傳道者こそ邦家の厄介物なれ

傳道隊の引揚け

我隊は既に前報に述へしか如く岐阜縣を巡遊し終り又名古屋に於ける兩夜の公會も求めしよりは多く惠みを領け其爲さんと欲する所をなし其企てたる所を果したり唯小野君は「フルベツキ」氏と共に瀨戶町に遊說せしかは其歸るを待ちたり同氏は二月一日名古屋を發し同日直に二回の演說會を開き翌二日も頻に引きとめられしも隊約ありけれは夜に至りて名古屋に歸り來れり翌三日東發一番の列車に搭し隊旗を卷きて凱戰の途に上れり是夜巖本阿兄藤井君等新橋に於て我隊を迎ふ

撮影

二月四日我隊の關係者即ち東京婦人矯風會々頭矢島かぢ子同副會頭海老名りん子荻野吟子及巖本善治藤井米八郎中村友吉小野坦松田順平湯谷磋一郎玉生くに子等(此外橫濱佐々木笑受郞東京三澤獸二郞明治女學校の數孃諸氏差支ありて來會なかりき)一番町武林方に至り紀念の爲めに撮影す

解隊式兼報告

初め我隊の先鋒東京を發するや外敵多く內一人の助けなきか如くなりしに拘はらす二月六日を卜して中六番町會堂に於て嚴然此式を擧けんとは實に望外の事なりき矢嶋かぢ子司會者の席につき聖歌を唱し聖經を讀み湯谷祈禱を捧け後

震地傳道隊の經歷及希望　湯谷磋一郎
震災地の孤兒　藤井米八郎
震災地の看病及治療　中村友吉
名古屋大演說會の實況　松田順平
天災と國家　巖本善治
震災傳道の所感　小野坦
震災地の傳道附たり禁酒事業　津田仙

順次演說ありき會するもの百餘名

我か傳道隊の希望

として一言すへきことあり最初目的たるや一日一人一家にのみにても傳道をなし得は足れり資の續くかきり同志の集る限り出來る丈の精神と心力を盡して事に從はんとせり故に震災地の傳道たるや先つ此精神を興すを必要となせり既に此精神を興せり卽ち自己に傳道者たる也此自己に向て既に傳道をなせり是より延きて教會の內部に傳道心を發揮せしめ以て我全國民の救極に及さんとはなせる也故に震災地の時機遲速論の如きは實に我隊の考にては小兒の紙鐵炮の如く響きしのみ論者の云ふか如く果して時機來らさるか我隊は其時機を早めんために進軍を急きたりし也未た此心事を叩かす右に衣類を給し左に未來を說くものとなし木魚と施米とを一となすか如きものなりと我隊を同一視して彼是云ひ合ひしものの如きは實に我隊には心なき蛙の鳴くか如く聞えし也吾儕は先つ友人として不幸民と交際し友人として宗教を談論せんと欲せし也故に我隊は先つ社會的運動をなさんか爲めに進軍を急きし也論者見よ今日果して如何我隊の足跡は論者に辨する所あらん願くは此小渦より波及して我全國民か謹嚴警戒の精神を起し我教會か益々熱中して

日本傳道隊

を組織し滔々堤の決するか如く生命の流れ大八洲を濕さんことを切望するもの也故に震地傳道隊の解隊式は即ち此日本傳道隊の結隊式ならんことを期望するもの也吾儕尙說あり請ふ他日を期し大方同感の士に訴へん

既往を顧れは

我か隊の先鋒か十一月十八日を以て進軍せし以來月を閱する其數三、旬を重ぬる其數八、資を得たる其員二百餘金同志を得たる其人七八實に望外の結果と謂はさるを得す吾儕は實に天を仰き求むる所にまさりて與へ玉ふ上帝に謝する所也亦同時我隊に同情を表し我不幸なる震災地の同胞を熱愛せる諸君に向て感謝する所也吾儕不肖固より諸君か吾儕に望を置きしか如く機敏熱愛の働きを全せさりしは深

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

く諸君と萬軍の主の前に懺悔し更に自ら鞭撻を加へんと欲する所也今や此の第十五の隊報と共に我隊は諸君と訣別せんとするに當り早卒筆を走らして下書せす不文不整の字を徒に弄して讀者の意を滿さゞりしを謝す願くは諸君邦家の爲めに自愛せよ我徒の前途尚ほ遼遠なり嗚呼豺狼途に當る誰か倚方斬馬の劍を揮つて進むものぞ

二月初八　於帝都　　湯谷磋一郞識

會計

第十回報告

○入の部

金二百一圓五十六錢四厘	前回迄入金合計
金一圓	津田仙君
金一圓	震災孤兒院無名氏
金二圓五十錢	黃金指環一箇賣却代
金二圓二十錢	寫眞師武竹氏寄附

合計二百八圓二十六錢四厘

○出之部

○金百八十四圓四十錢七厘	前回迄出金合計
○金三十二圓八十五錢八厘	廿四日より二月四日迄傳道者入用合計

右內譯

金四十錢	（廿四日）	松川竹ヶ鼻今尾間車代
金四錢	（廿五日）	齒磨粉
金八十錢		雪靴一足松川分
金十一錢	（廿六日）	卷紙
金三錢		理髮
金一錢八厘		狀袋
金三圓	（廿七日）	演說會場費
金十錢		西洋紙
金一錢		赤インキ
金八錢		大小筆二本
金五錢		車代
金廿四錢		金城新報廣告料
金廿四錢		新愛知同
金三十二錢		扶桑新聞同
金三十三錢	（廿八日）	カンレイシヤ購用
金八錢五厘		西洋紙
金五錢		エリ一個
金二錢		博物館見料
金三錢		鉛筆二本
金一錢五厘		新聞紙
金五錢		ズボト
金九錢		車代
金三圓三十五錢	（廿九日）	演說會場及人足料
金十三錢		菓子代
金三錢	（三十日）	新聞二枚
金十五錢	（二月一日）	岩本氏へ電報
金三錢		新聞二枚
金三十三錢		瀨戶行車代
金三十錢		靴下一足
金十二圓六十六錢五厘		湯谷氏一月廿日ヨリ小野氏廿五日ヨリ松田氏廿六日ヨリ二月二日マテ名古屋滯在宿泊料及諸雜費
金二十八錢	（一月廿六日）	松田岐阜木曾川間車代
金十二錢五厘		同晝飯
金十四錢		木曾川名古屋間滊車代
金十七錢五厘		岩本氏へ電報及使
金二十四錢	（二月二日）	停車場マテ車三台
金四十九錢五厘	（三日）	滊車中諸雜費
金七圓五錢		名古屋東京間滊車賃三人分
金一圓五錢		興津中食及車代三人分
金十五錢		巖本氏へ電報
金六錢		ハガキ六枚

○金六圓二十一錢	（四日）	東京ニテ入用合計

右內譯

金三十六錢	（三日）	新橋より巖本氏方迄車三輛
金二圓九十五錢	（四日）	隊員慰勞八名會食よし洋軒への拂
金一圓五十錢	（四日）	寫眞三枚元板料
金一圓		隊員八名前三枚合せ配與せし寫眞五枚足料
金四十錢		橫濱無名氏及共立女學校へ送附右寫眞二枚代

○金四圓二十四錢	松田順平氏仙台歸向に付入用
○金五圓	佐々木笑受郞氏名古屋滯在中借用分石井氏へ返却

合計二百三十二圓七十一錢五厘

純不足金二十四圓四十五錢一厘

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

正札引なし

流行新形

○はをり紐品々
○帯留類品々
○時計紐品々
○メリヤス品々

右ノ外御組糸物一切
○御進物等ハ美麗ニ御好ミニ應ッ精製調進仕候

組糸老舖
日本橋區よし町
佐竹勝兵衛

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

女學生

二拾號去ル一月廿一日發兌セリ

額上の汗……………………星野慎

漫録
病中雜感(苦腸百回、愛の攝理、主と我等、先づ已に反求す、愛と慾、至不至、神の前と人の前、小心と大膽、愛すべき愛よ、烈火と熱涙、最も寂しく最も賑やかなり、德)……山月子
百感雜筆(義は讓るを爲す、感情は水蒸氣に似たり、浮世書上の難字)……暗光子

雜録
新年祝……(女子學院)小出千香子
細君(アービング作下半譯)……(明治女學校)波多野祐子
故山の日……(女子學院)瀧口みか子

新年附録小説
太刀創……暗光子

一册六錢

女學雜誌社發兌

女學生全盟各女學校は左の如し
○明治女學校○女子學院○女子神學校○共立女學校○フェリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立教女學校○成立學舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○青山英和女學校○金城女學校○高田女學校○海香崎女學校。

定價

一册。	前金	五錢五厘	郵稅。五厘
六册。	前金	三拾三錢	但郵稅共
十二册。	前金	六拾六錢	但郵稅共

本誌は毎月一回廿一日に發兌す○代價は前金拂込を要す○爲替は麹町郵便局宛にて振込被下度○郵券代用は五厘切手にて一割增の事○見本郵券六錢にて送るべし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

早稲田文學第八號目次

釋義　莊子　三島中洲氏
講述　論理學　大西祝氏
德川文學　關根正直氏
シルレル傳　森鷗外氏
評註　丹波與作　饗庭篁村氏
マクベス　坪内逍遙氏
俳諧論　饗庭篁村氏
雜錄　古代の小説　小中村清矩氏
文學定義二種
歌話　千葉梅園氏

時文評論

●沒理想の語義を辨ず(逍遙)●「柵草紙」濤を驅り雲を湧す●「都の花」異彩を放つ●朗讀法●家永豐吉氏の著書●「史學會雜誌」●近刊諸雜誌●俳壇のおとづれ(第二)●早稲田文學會●維新以後の文法書●新刊

一月三十日發兌　代價一冊九錢郵稅二錢
六冊前金五十一錢郵稅十二錢

大　告

慈愛ナル母達ハ已ニ老ヒタリ之ニ代テ明治新世界ノ母上タルモノハ誰ゾ有爲壯活ナル淑女諸君ナリ諸君ハ實ニ大責任ヲ負ヘリ豈老ヒタル母達ノ才智ノ如クシテ可ナランヤ况ンヤ外ハ賢明ナル白哲婦人ニ交リ内ハ英タル大和男子ニ接スルノ今日オヤ古來ノ軟弱ヲ脱シテ共ニ毅々剛々タル精神ヲ鼓舞セシメザル可カラズ本會ハ乃チ之等勇壯ナル青年活潑ナル淑女諸君ヲ以テ組織ス其目的タル一ニ學術ノ研究智識ノ鍛練之レ勵ミ進テハ文明ノ進歩ヲ計リ退テハ同胞青年ノ義務ヲ盡サントス○○○○之ガ進航ノ機關トシテ學海之濵ナル會誌ヲ各會員ニ配布ス(毎月一日)苟モ爲スアラントスルノ青年淑女諸君ヨ來レ以信會ヘ會セヨ學海ノ濵上ニ！但シ二錢ヲ投セバ規則書ヲ呈ス

新潟縣南魚沼郡湯澤村一一九番邸
以信會本部

新年初刊の女學雜誌には、附錄あり、親に後れし後の述懷と題する「すゞ子女史」の文あり、彼の一夜と題する「山月子」の文あり、人生に寄すてふ無名氏の譯文あり、請ふ一讀せよ。

第三版
百人一首講義

上製美本　三十五錢　郵稅六錢

新年の讀書に宜し
歌留多遊びに宜し
遺物に宜し
詠歌に宜し

女學雜誌社

轉居　下六番町六番地女學雜誌社内　**星野愼之輔**
○面接日。月曜日、社内にて。○土曜日、本町四丁目自宅にて

產婆　本郷森川町一番地百七十號　慈善看護婦會内同居　**玉生くに**

女醫　下六番町六番地明治女學校内にて外來患者を診察す　(校醫)　**荻野ぎん**

迎接日　木曜日午後三時後　**巖本善治**

雜誌	定價		
一冊	六錢	郵稅。五厘	(但府內無郵稅)
十一冊	五拾八錢	郵稅。五錢	
半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢 (同前)

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY